



Application to become a member of International Safe Schools Network

インターナショナルセーフスクール申請書

亀岡あゆみ保育園のスローガン

「元気に走ろう 遊ぼう けがのない あゆみの子」



社会福祉法人 倣囊会(ほうじょうかい)

亀岡あゆみ保育園

2015年3月31日

亀岡あゆみ保育園のアドレス

住所 〒621-0826

亀岡市篠町篠下中筋 45-1

電話 0771-24-6770

Fax 0771-25-0915

Mail: info@kameoka-ayumi.com

URL: <http://www.kameoka-ayumi.com/hoikuen/>

目次

	ページ
ごあいさつ	1
第1章 亀岡あゆみ保育園の概要	2
1 社会福祉法人 倣裏会 は、 基本理念 職員の行動原則 法人の沿革と事業分野	
2 亀岡あゆみ保育園は、 保育目標 施設 園児数 職員数 保育園を取り巻く環境	
第2章 I S Sへの取組み	5
1 取組みの背景	
2 これまでの取組み状況	
第3章 外傷によるけがの状況	6
第4章 けがの発生状況に基づく予防対象の設定を行いました。	11
第5章 8つの指標に基づいた取組みを実施しています。	12
指標1 保育士（職員）、園児、保護者、地域の協働を基盤とした、 安全向上に取り組む運営体制を設置しています。	12
指標2 取組の方針（政策）はセーフコミュニティの文脈に基づき、 上位団体（自治体や教育委員会等）の方向に一致させる組織と しています。	15
指標3 すべての性別、年齢、環境をカバーする長期・継続的予防活動を行 っています。	16
指標4 ハイリスクをカバーする長期・継続的予防活動を行っています。	19
指標5 すべての取組みはデータ・根拠に基づいて実施しています。	21
指標6 亀岡あゆみ保育園は、外傷の頻度と原因を継続的に把握する システムを構築しています。	
1 けがデータの収集と記録の方法は、	24
2 亀岡あゆみ保育園のPDCAアプローチを図表化すると、	25
3 外傷の頻度と原因の追究をこのように行っています。	26
指標7 予防活動の効果・影響を長期にわたり、測定・評価する仕組みを もっています。	36
指標8 国内・国際ネットワークへ継続的・積極的に参加しています。	39
第6章 今後の課題と対策	40

ごあいさつ

亀岡あゆみ保育園は

ISS 取組を宣言しました。

2013年9月6日

ISS(インター ナショナル・セーフ・スクール)は

- 物理的に全く危険がない、
100%安全な保育園を目指すものではありません
子どもたち自身の安全に対する意識を高め、
危険を回避する能力を育む活動です。
- 安全・安心は
園児・職員・家庭・地域が協働して自分達で獲得できる・獲得するものです
- データを収集し、原因究明→具体的対策→行動・実践→測定・評価します。
この活動の結果として 事故・けがを減少させることを目指します。



亀岡あゆみ保育園の ISS スローガンは

「元気に走ろう 遊ぼう けがのない あゆみの子」



職員一同 がんばるぞ！

「がんばり門」の前で 2013年9月

第1章 亀岡あゆみ保育園の概要

亀岡あゆみ保育園は社会福祉法人「倣裏会」が運営している保育園です。

倣裏会は保育事業と高齢介護事業を運営しています。

1、社会福祉法人 倣裏会 は

倣裏会の裏は、同志社創立者である 新島襄先生の裏です。
法人の運営目標は「良心ノ全身ニ充滿シタル丈夫ノ起コリ来
タランコトヲ」切望し、知育・徳育・体育の三位一体教育を
推進した新島襄の理想に倣（なら）って行動し、福祉に貢献
しようと言う気持ちを表します。それ故に倣裏会は福祉活動
を通じて社会に貢献するというミッション（使命）を持って
います。

新島 襄

(にいじま じょう)

1843（天保14）～1890（明治23）



シンボルマーク は

全体の円形は愛・太陽・地球・環境安全などの意味です。

円形の下部・底辺の線は安定を表します。

色の変化は成長のシンボルです。

全体であゆみ、成長するという姿を現しています。

基本 理念

私達は、福祉活動を通じて地域社会に貢献します。

経営の方針

経営基盤の強化を図りつつ、福祉サービスの質の向上、並びに事業運営の透明性を確保します。

職員の行動 原則

個々の能力を最大限発揮して、仕事を通じて社会に貢献します。

そのため

- 一、熱意を持って仕事に当たり、誠意を持って利用者に接します。
- 一、規律と希望に満ちた職場を創ります。
- 一、よい自分をつくるために常に資質の向上に努めます



基本理念の碑

法人の沿革と事業分野

1983年（昭和58年）	3月15日	社会福祉法人 倣裏福祉会 の設立認可を得る
1983年（昭和58年）	4月 1日	亀岡あゆみ保育園を開設する 園児定員 70 名
1995年（平成 7年）	4月 1日	亀岡あゆみ老人介護支援センターを開所する
1998年（平成10年）	4月 1日	社会福祉法人 倣裏会 に法人名を変更する 以降各種施設を開設する
2015年（平成27年）	4月 1日	現在の事業展開は 亀岡あゆみ保育園本園・馬堀駅前分園・上西山分園 一時 預かり事業 子育て支援拠点事業（キッズハウス） 亀岡あゆみデイサービスセンター 亀岡市地域包括支援センター あゆみ 亀岡あゆみ居宅介護支援事業所 あゆみの家（小規模多機能型居宅介護） ・認知症対応型共同生活介護 認知症あんしんサポート相談窓口 ほっとルームあゆみ（認知症対応型 通所介護）



創業者
湯浅 忍

2、亀岡あゆみ保育園は、

湯浅忍・孝子夫妻が 亀岡市篠町、
現在地に保育園を開設しました。

1983年4月

現在は

本園 馬堀駅前分園 上西山分園で
年齢別クラス編成で保育をしています。
早朝保育・長時間保育・延長保育
一時 預かり保育
子育て支援事業（キッズハウス）を
運営しています。

保育目標は、知育・徳育・体育です



亀岡あゆみ保育園は、次の4事業所でISS認証を申請します。



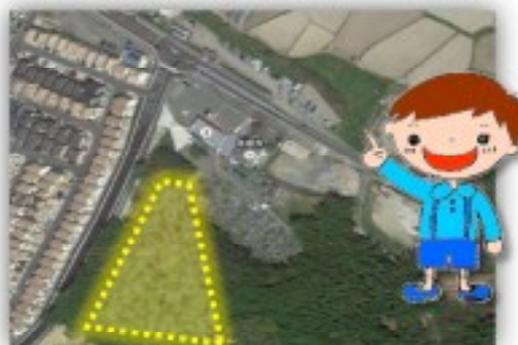
本園 篠町篠下中筋 45-1



馬堀駅前分園 篠町馬堀駅前2丁目 6-1



子育て支援事業・キッズハウス 本園前



上西山分園 篠町篠上西山 8-1 4月完成

施設 2015年2月1日現在

保育室	一時保育	支援室	ホール	プール	グラウンド	園庭	厨房	職員室*
15	1	2	1	1	1	1	2	2

年齢別クラス編成で保育 *職員室に病後児保育室を設置

園児数 2015年2月1日現在

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
人数	29	42	49	70	41	64	295

職員数 2015年2月1日現在

園長	副園長	主任	副主 Le	保育士	事務	看護師	厨房	バス	合計
1	1	1	4	61	2	3	6	2	81

保育園を取り巻く環境

亀岡あゆみ保育園は、セーフコミュニティ日本第1号認証の都市・亀岡市の東部に位置しています。亀岡市が認証を獲得したモデル地区・篠町にあります。都市と農村の融合する地区で亀岡市の人口の20%を占め、なお人口の増大している地区です。本園のエリア内には、京都縦貫道（自動車専用道路）篠インターチェンジ、一日の交通量が

5,000台を超える府道、多くの市道、脇道が交錯しています。18歳の無免許少年が、集団登校中の小学生の列に突入、4名の犠牲者と7名の重傷者がでた交通事故は近くで発生しました（2012年4月発生、犠牲者の多くが本園の卒園児）。また多くの通勤・通学者・観光客が利用するJR馬堀駅前には馬堀駅前分園があります。各種の都市機能とともに、トロッコ亀岡駅、保津川下りラフティング拠点、篠村八幡宮（足利尊氏が六波羅攻めの旗立で有名）等の観光資源もあります。住宅開発が進行中の夕日ヶ丘地区には、新園をこの4月にオープンさせます。当法人は、各種高齢事業も運営しており、保育部門との交流も多くあります。

第2章 ISSへの取組

1、取り組みの背景

亀岡市は2008年に日本第1号の認証を獲得し、2013年には再認証を獲得しています。園長井内邦典は、このセーフコミュニティ活動で、指導的役割を果たしてきました。

最初の認証時には、篠町自治会長として篠町をモデル地区に選定し、行政と協働活動で認証を獲得しました。亀岡市の活動で主要な役目を果たすとともに、先駆的な経験事例を国内外50カ所以上に講演・会議形態でシェアしてきました。日本セーフコミュニティ推進機構と協働する中で、就学前の子どもをカバーするプログラムの必要性を認識しました。このたび（2013年9月取組宣言）、亀岡市立保育所（8保育所）とともに、保育園対象のセーフコミュニティ活動(International Safe School)を開始しました。

2、これまでの取組状況

- | | |
|----------|--|
| 2013年9月 | ISS取組宣言（8市立保育所と協働で宣言式実施）。
ISS活動の周知・広報を開始する。
ISSけがデータの収集を開始する。 |
| 2013年10月 | 厚木市清水小学校、ISS認証式に参加する。 |
| 2014年2月 | 安全安心まちづくりフォーラム 亀岡市にて
ブースで「亀岡あゆみ保育園の取組み」を広報。
分科会で「保育園はISS活動の宝島だ」を発表（PPT）しました。 |
| 2014年5月 | 亀岡市SC推進会で「亀岡あゆみ保育園の取組み」を発表（PPT）しました。 |
| 2014年11月 | 亀岡あゆみ保育園で事前審査（白石、朴、今井先生）を受けました。 |

第3章 外傷によるけがの状況

亀岡あゆみ保育園は、2013年9月よりけがのデータ収集を開始しました。

(それ以前のデータはありません。よって、この6ヶ月間のデータに基づき
指標3、指標4を設定しました)

活動開始6か月間(2013年10月～2014年3月)、園児数280名でのけがの状況は、

1、けがの総数は 156件

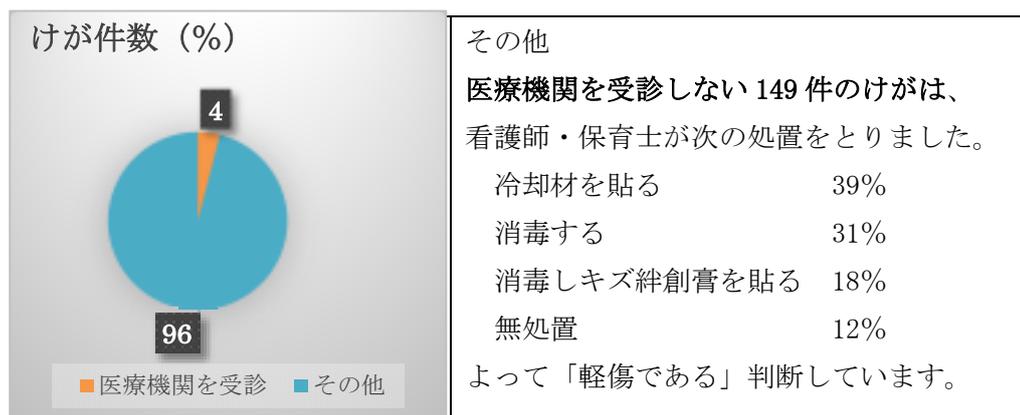
医療機関を受診したけがは 7件(4%)

その他 149件(96%)は軽傷でした。

けが発生時には、現場での応急処置を行います。149件は園内の処置で終了です。

①保育士は外出時、救急用品を携帯。保育室には救急箱を常備しています。

②看護師は園児・保育士に同行外出する時は、救急用品を携帯、保健室には医薬品を常備しています。よって、けが発生時には、すぐ処置できる体制です。



(図表1 期間2013年10月～2014年3月 けがの件数156件 当園ISSデータ)

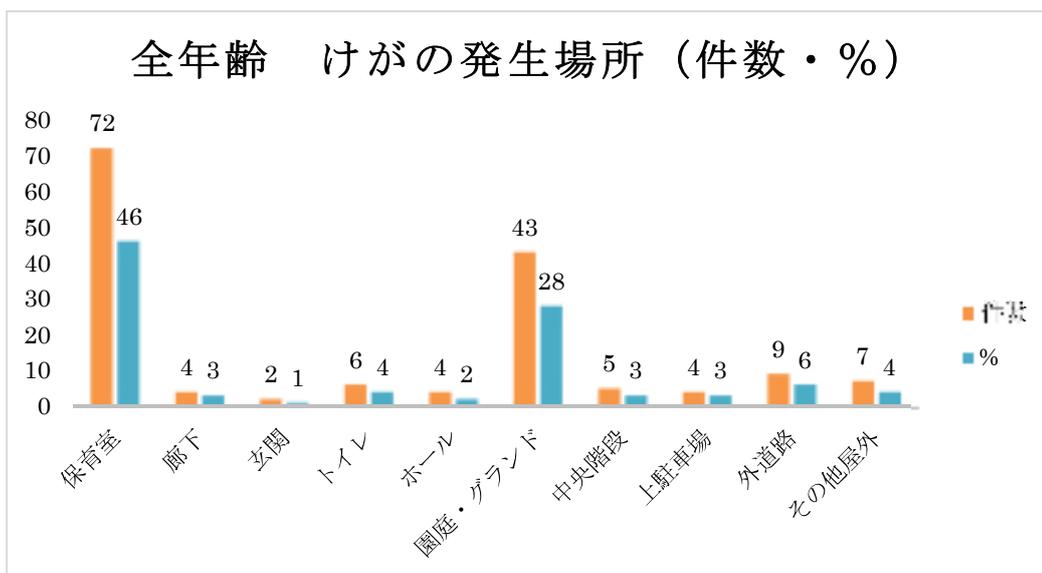
2、けがの発生場所は、

① 0～5歳児の全年齢では、保育室、園庭・グラウンドが多くこの2カ所で、115件、全体の74%を占めます。(図表2)

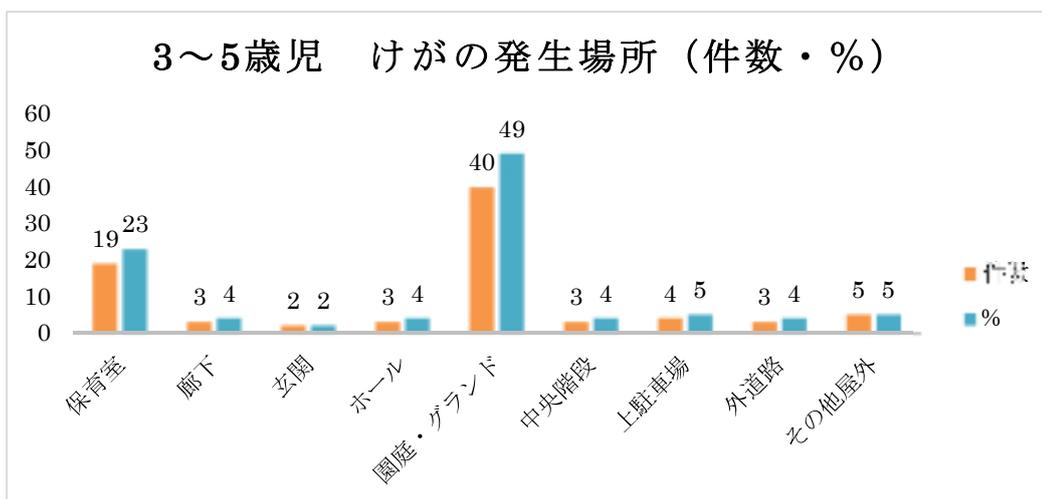
② 年齢別(0～2歳、3～5歳児)分析すると、際立った特徴があります。(図表3,4)

3～5歳児の Top1は園庭・グラウンドで40件(49%)、Top2は保育室で19件(23%)、園庭・グラウンド、保育室で72%のけがが発生しています。

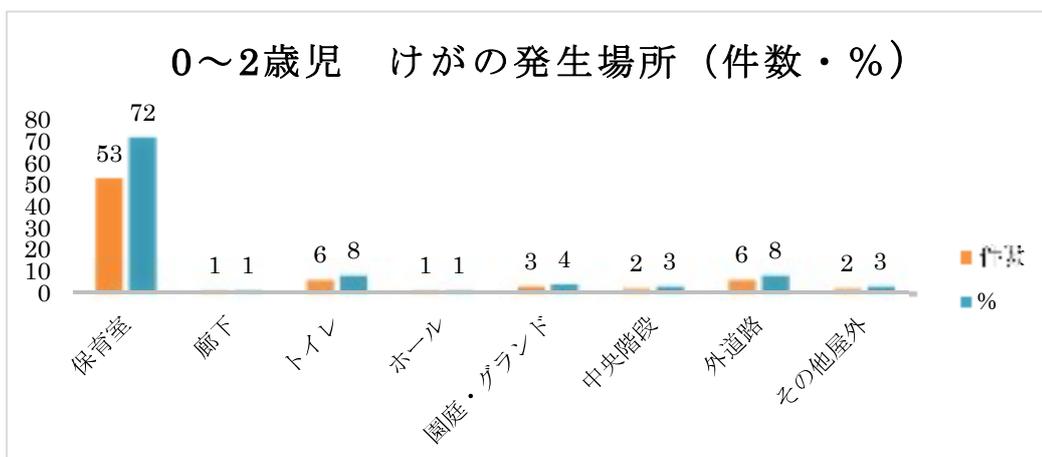
0～2歳児の Top1は保育室で53件(73%)、Top2、Top3はトイレ6件(8%)と外道路6件(8%)です。保育室だけで73%のけがが発生です。



(図表 2 期間 2013 年 10 月～2014 年 3 月 けがの件数 156 件 当園 ISS データ)



(図表 3 期間 2013 年 10 月～2014 年 3 月 けがの件数 82 件 当園 ISS データ)



(図表 4 期間 2013 年 10 月～2014 年 3 月 けがの件数 74 件 当園 ISS データ)

3、けがが発生場所は、安全マップの発生場所マーキングでも鮮明に把握できます。

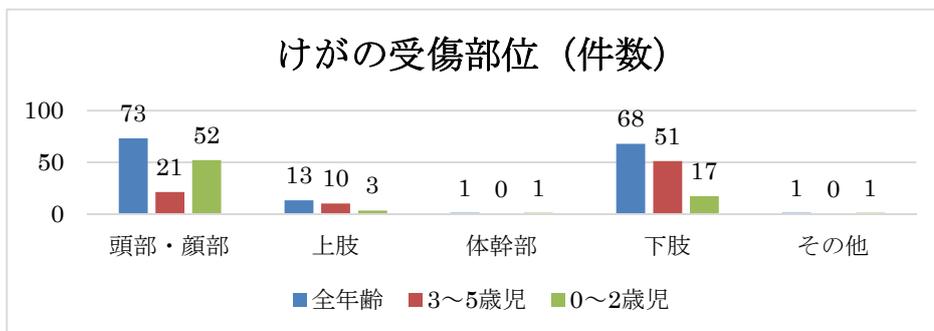


(図表 5、期間 2013 年 10 月～2014 年 3 月、けがの件数 156 件、当園 ISS データ)

園舎内でも保育室により、大きな差異があります。同年齢児の保育室は隣合わせで、よく似た環境です。クラス人数（一人当たりの床面積）も大差がありません。しかしけがの件数にはかなり差があります。活動しながら、慎重に原因を究明します(図表 5)。

4、けがの受傷部位は、

- ① 0～5 歳児の全年齢では、頭部・顔部、下肢が多くこの 2 カ所で、141 件、全体の 90%を占めます。(図表 6、7.)
- ② 年齢別 (0～2 歳、3～5 歳児) 分析すると (図表 6、7.)、際立った特徴があります。
 - 3～5 歳児の Top1 は下肢で 51 件 (62%)、Top2 は頭部・顔部で 21 件 (26%)、下肢、頭部・顔部で 88%のけがが発生しています (図表 6、7)。
 - 0～2 歳児の Top1 は頭部・顔部で 52 件 (71%)、Top2 は下肢で 17 件 (23%)、頭部・顔部、下肢だけで 94%のけがが発生です。(図表 6、7)



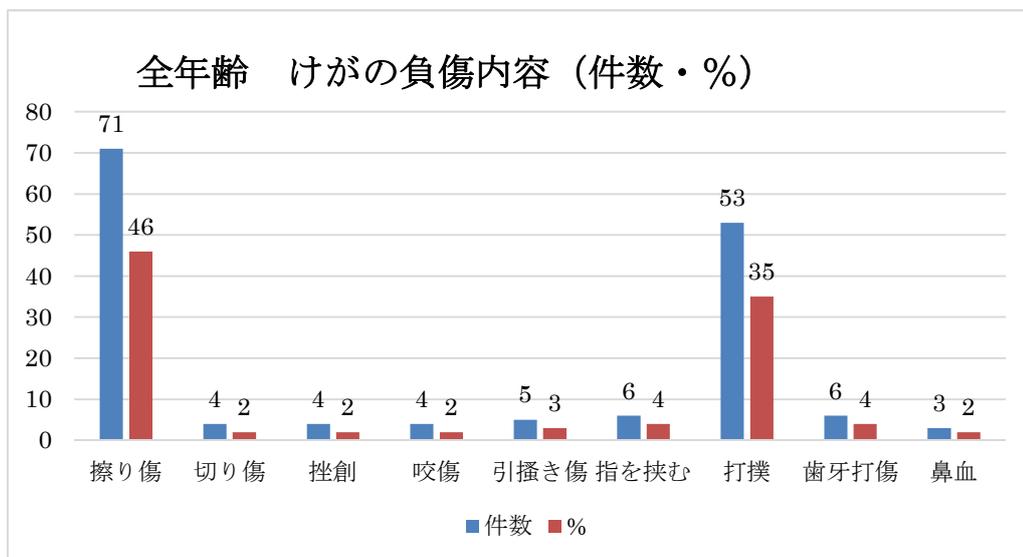
(図表 6、期間 2013 年 10 月～2014 年 3 月、けがの件数 156 件、当園 ISS データ)



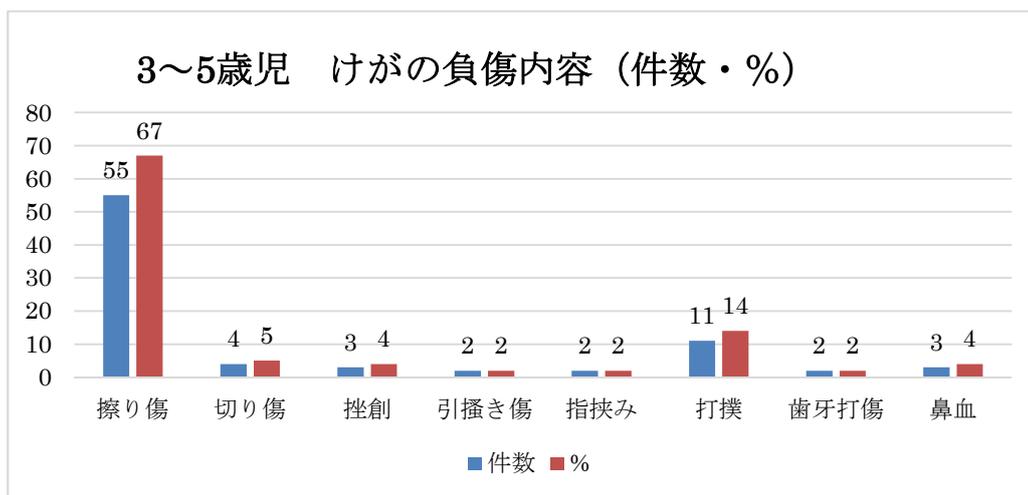
(図表 7、期間 2013 年 10 月～2014 年 3 月、けがの件数 156 件、当園 ISS データ)

5、けがの負傷内容は

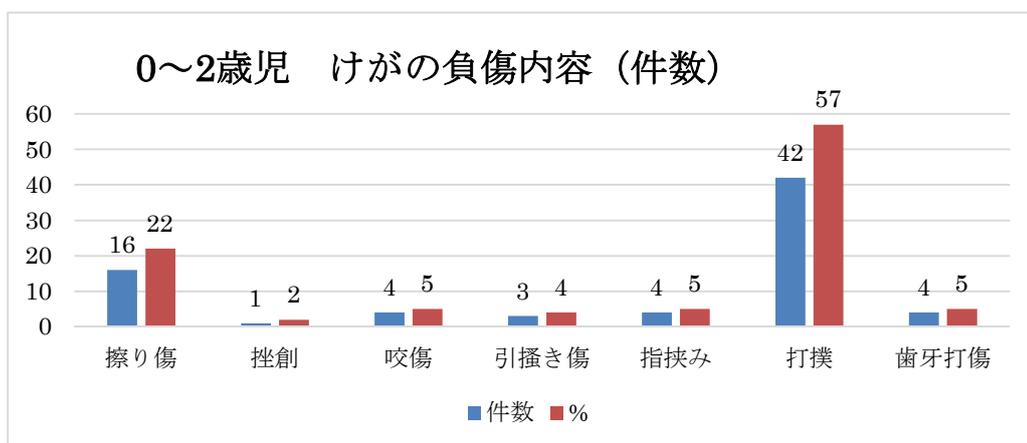
- ① 0～5 歳児の全年齢では、擦り傷、打撲が多くこの 2 つで、124 件、全体の 81%を占めます。(図表 8、)
- ② 年齢別 (0～2 歳、3～5 歳児) 分析すると、際立った特徴があります。
 3～5 歳児の Top1 は擦り傷で 55 件 (67%)、Top2 は打撲で 11 件 (14%)、
 擦り傷、打撲で 81%のけがが発生しています。(図表 9)
 0～2 歳児の Top1 は打撲で 42 件 (57%)、Top2 は擦り傷で 16 件 (22%)、
 擦り傷、打撲だけで 79%のけがが発生です。(図表 10)



(図表 8、期間 2013 年 10 月～2014 年 3 月、けがの件数 156 件、当園 ISS データ)



(図表 9、期間 2013 年 10 月～2014 年 3 月、けがの件数 82 件、当園 ISS データ)

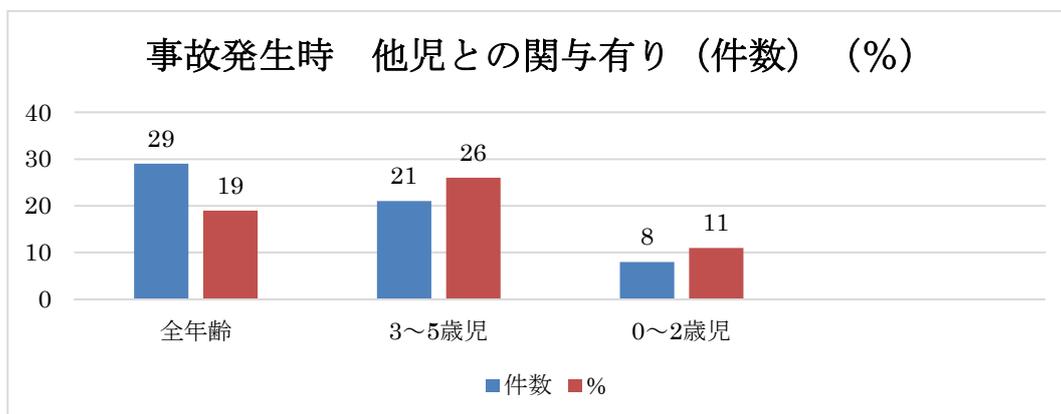


（図表 10、期間 2013 年 10 月～2014 年 3 月、けがの件数 74 件、当園 ISS データ）

6、けが発生時の、他児との関与の有無は、

「他児との関与の有無」とは、子ども同士のぶつかり、他児の腕が当たる等、他児との関連で発生したけがか（関与有り）否かです。活動開始時は視野に入れていませんでしたが、対象にする価値があるとの判断でデータ収集を開始しました。

- ① 0～5 歳児の全年齢では、他児との関与の「有り」は、29 件でけが全体の 19%を占めます。（図表 11）
- ② 年齢別（0～2 歳、3～5 歳児）分析すると、（図表 11）
 - 3～5 歳児は 21 件（26%）、
 - 0～2 歳児は 8 件（11%）です。
- ③ 3～5 歳児は子ども同士のぶつかり、他児の腕等体の一部が当たるがほぼ同数。0～2 歳児はぶつかりとかみつ（他児にかみつ）が 3 対 1 です。今後は、データの精度を上げ分析し、対策できるよう活動しています。



（図表 11、期間 2013 年 10 月～2014 年 3 月、けがの件数 156 件、当園 ISS データ）

7、医療機関受診のけがは、7件でした。

(期間 2013 年 10 月～2014 年 3 月、けが総数 156 件)

少ない件数ですが、

- ① 安全教育無視によるけがの発生 2 件、すなわち
保護者の手を振り切って走り転倒、禁止区域で縄跳びをして転倒です。
- ② 教材関連のけが 2 件
- ③ 保育士の不注意 1 件 その他 2 件でした。

8、ヒヤリハットによる改善は5件でした。

通路の板蓋の腐食取換、階段に手すりをつける、すのこのひび入りの取換等、いずれも施設の安全改善でした。

第4章 けがの発生状況に基づく予防対象の設定を行いました。

亀岡あゆみ保育園のけがの特徴を要約すると、

3～5 歳児は、園庭・グラウンドを走り回り、転倒し、下肢を擦りむくタイプが多い。身体の成長に伴い、倒れても手が出る、手足が強くなり頭部のけがが減少するようです。

受傷場所	受傷部位	受傷内容
園庭・グラウンド 49%	下肢 62%	擦り傷 67%

➡予防対象は 遊具の安全、施設の安全を設定しました。

0～2 歳児は、保育室でバランスを崩し、転倒、あるいは物にぶつかり、頭部・顔部を打撲する。頭・顔から倒れています。遊具のような小さなものでもけがになる。

受傷場所	受傷部位	受傷内容
保育室 72%	頭部・顔部 71%	打撲 57%

➡予防対象は 施設の安全、教材・玩具の安全を設定しました。

駐車場、園の門前の外道路で保護者同伴時に医療機関を受診するけがをしています。

これは安全教育・習慣づけで防げるケースです。

➡予防対象は 各種の安全教育プログラムを設定しました。

ここでは代表事例をあげ、方向性を述べました。

「第3章、外傷によるけがの状況」に基づき、いかに「指標3」を設定したかは、「指標5」で詳しく説明します。

第5章、8つの指標に基づいた取組みを実施しています。

指標1 保育士（職員）、園児、保護者、地域の協働を基盤とした、安全向上に取り組む運営体制を設置しています。

1 セーフコミュニティとのつながり（図表12 亀岡市セーフコミュニティ組織図を参照）

亀岡市では、「安全・安心こそ最大の福祉である。」との強い信念の下、2006年からセーフコミュニティ活動に取り組んでいます。取組体制としては、セーフコミュニティ推進協議会を推進母体に、7つの対策委員会の活動と、自治会主導のモデル地区活動の展開です。

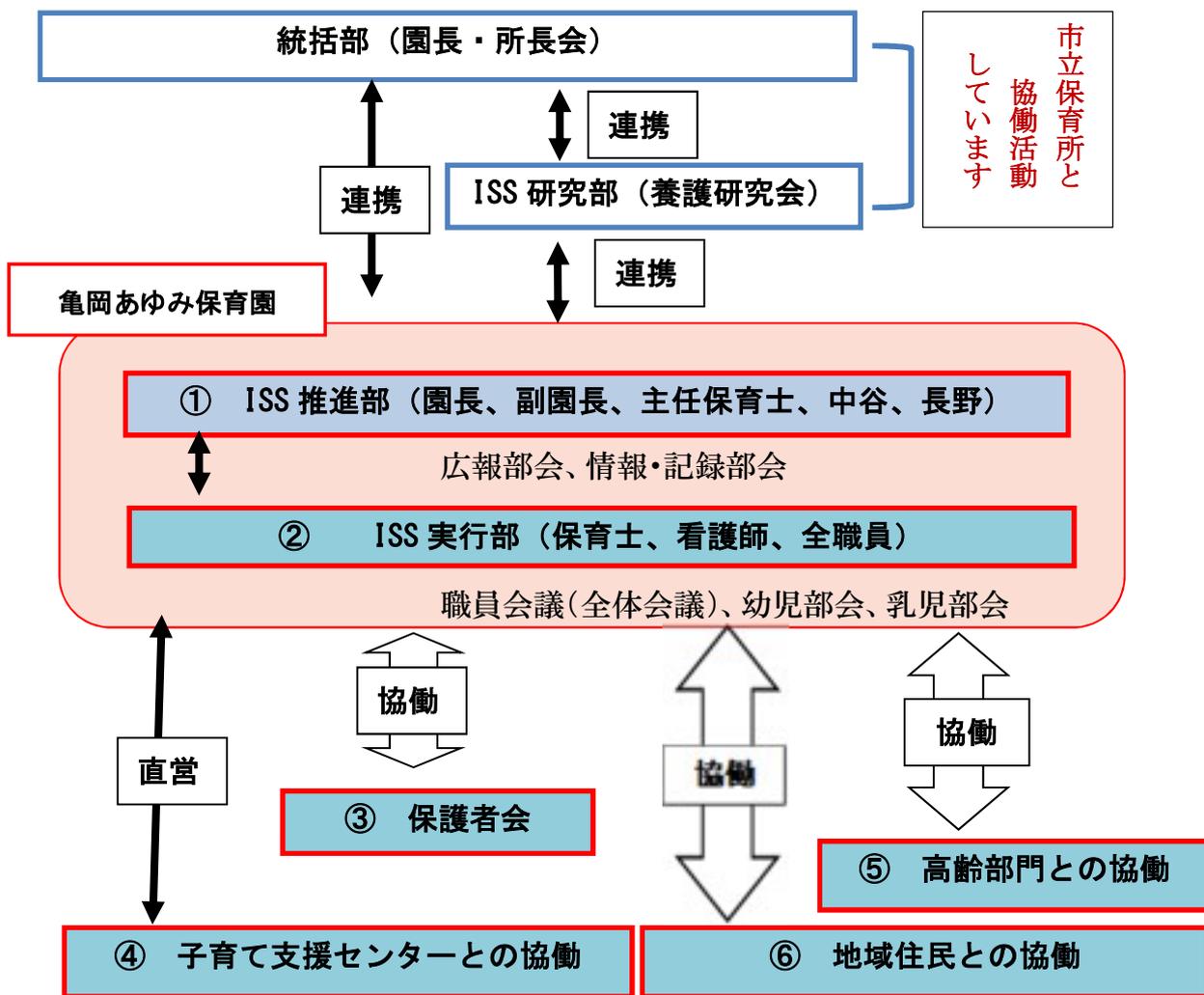
セーフスクールについては、亀岡あゆみ保育園は公立保育所と協働で「乳幼児の安全対策委員会」と連携しながら活動を推進しています。また篠町自治会の地域に位置しており自治会組織とも密接に協働しています。



（図表12、亀岡市セーフコミュニティ組織図）

2 亀岡あゆみ保育園の国際セーフスクール推進体制

8公立保育所長と協働のセーフスクール推進体制です。保育園内だけでなく、保護者会や子育て支援センター、地域住民との協働もしています。



(図表 13、亀岡あゆみ保育園 ISS組織図)

(1) 統括部 (園長・所長会) 市立保育所と協働部門

保育園長、保育所長からなる組織です。月1回開催される会議の中で(亀岡あゆみ保育園は適時参加、あるいは市セーフコミュニティ担当課・子育て支援担当課を介し、セーフスクールに関する情報交換を行い、取組課題の共有化を図っています。またそれに基づいて、活動方針の決定、推進の調整を行っています。

(2) ISS 研究部 (養護研究会) 市立保育所と協働部門

各保育園・所の養護師、看護師、養護担当保育士からなる組織です。外傷データの収集方法の検討や、データの分析・考察を行い、ISS 推進部に情報提供を行います。

亀岡あゆみ保育園は、医師(府立医大)へ iPad で情報を直接提供しています。また保育士への意識調査や、各家庭における子どもの生活習慣などのアンケート調査も実施しています。



市立保育所と協働部会の実施日とその内容は、

	開催日	内 容
2013年	7月23日	ISS研修会
	8月28日	安全安心マップについて
	9月11日	ISSの指標について
	10月23日	ISSの指標について
	12月17日	ISSの指標について
2014年	6月24日	ISSの指標について
	9月30日	事前審査に向けて
	12月16日	事前審査の振り返り
	2月9日	ISS申請書について

(表1、市立保育所との協働)

次に亀岡あゆみ保育園の運営体制・組織は、

① 亀岡あゆみ保育園 「ISS推進部」

亀岡あゆみ保育園では、園長、副園長・主任保育士・看護師・中谷・長野からなる組織です。外傷データをもとに亀岡あゆみ保育園における課題、プログラムを選定し、取組の効果測定や見直しなどを実施しています。セーフスクール推進における中核を担っています。



消防署・警察等と園レベルの協働を構築しています。(安全教室・防災訓練等)
ISS推進部には、広報部会、情報・記録部会を設置しています。

② 亀岡あゆみ保育園 「ISS実行部」

亀岡あゆみ保育園の保育士・職員からなる組織です。ISS推進部が決定したプログラムを実施します。また地域ISS部と連携し、交通安全活動や災害時の対策などを実施しています。職員会議(全職員)、幼児部会、幼児部会を設置しています。

③ 亀岡あゆみ保育園 「保護者会」

保護者からなる組織です。「園だより」「お知らせ」「Mail配信」等、全保護者に呼びかけセーフスクールの活動を推進しています。保護者アンケートも実施しています。

④ 子育て支援センターとの協働(亀岡あゆみ保育園直営のキッズハウスのこと)

本園の保育士により、地域全体の子育てを支援しています。子育て家庭に対する育児不安についての相談指導を実施する施設です。地域の他の子育て支援のネットワークと連携しながら活動を実施しています。

⑤ 高齢部門との協働

デイサービス、グループホーム等、本法人が運営する高齢施設と提携し、「徘徊者探索」訓練の実施。発表会等への招待。グループ遊び等を実施しています。

⑥ 地域社会との協働

地域(篠町自治会や八幡区・篠区、町づくり推進会、学校、消防、警察、個人農園等)と連携し、園外活動時や登降園の見守りなど、ISS活動の支援を実施しています。

指標 2、取組の方針（政策）はセーフコミュニティの文脈に基づき、上位団体（自治体や教育委員会等）の方向に一致させる組織と
しています。

1、亀岡あゆみ保育園の ISS 活動は亀岡市セーフコミュニティ活動に連動する活動です。

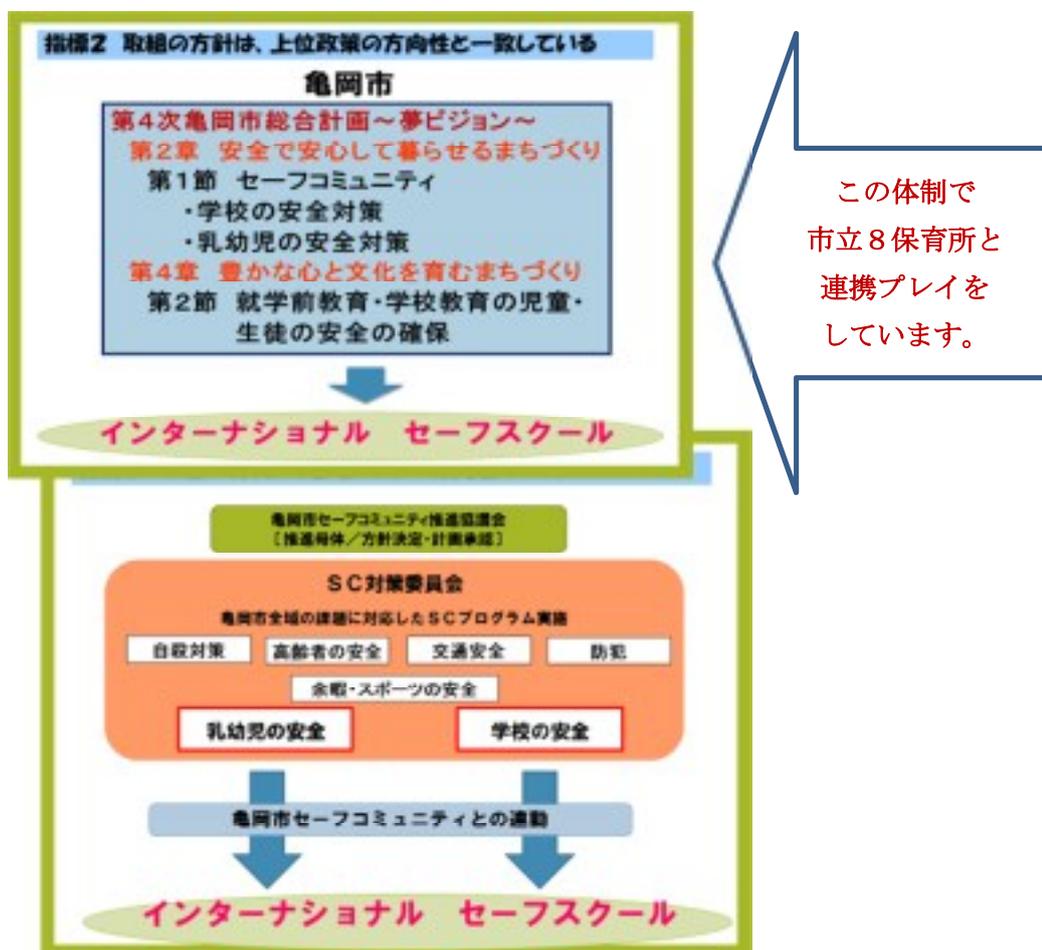
亀岡市 S C 推進協議会——乳幼児の安全委員会——亀岡あゆみ保育園 ISS です。

亀岡あゆみ保育園と 8 市立保育所は協働で ISS を推進しています。

亀岡あゆみ保育園井内邦典園長は、

亀岡市 S C 推進協議会、S C サーベイランス委員会のメンバーです。

チャート化すると次のようになります。



この体制で
市立 8 保育所と
連携プレイを
しています。

(図表 14、亀岡市 ISS 上位団体組織図)

2、亀岡あゆみ保育園の ISS 活動のスローガンは

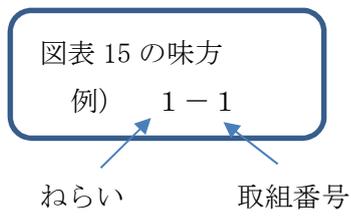
「元気に走ろう 遊ぼう けがのない あゆみの子」

3、保育園運営の基本「保育課程・年間計画」に ISS 推進を明記しています。

「ISS 活動に取組み、けが・事故の危険を予知・対応する 安全な保育を実施
します」

指標 3、すべての性別、年齢、環境をカバーする長期・継続的予防活動を行っています。

ねらい 1 環境整備、2 安全教育、3 体力づくり



		園児					職員	保護者・地域	
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳			5歳
園内	園舎内	1-1 遊具を安全に使用							
		1-2 教材・玩具を安全に使用							
		1-3 施設に安全工夫							
		1-4 産業医指導の安全衛生委員会活動							
			2-1 交通安全教室						
			2-2 芋ほり・いちご狩りで安全教育						
			2-3 避難訓練						
			2-4 保護者への安全指導						
			3-1 運動能力・体力づくり						
	園舎外	1-1 遊具を安全に使用							
		1-2 教材・玩具を安全に使用							
		1-3 施設に安全工夫							
		1-4 産業医指導の安全衛生委員会活動							
			2-1 交通安全教室						
			2-2 芋ほり・いちご狩りで安全教育						
			2-3 避難訓練						
		2-4 保護者への安全指導							
		3-1 運動能力・体力づくり							
園外	送迎中	2-1 交通安全教室							
		2-4 保護者への安全指導							
			3-1 運動能力・体力づくり						
	家庭	2-1 交通安全教室							
		2-4 保護者への安全指導							
			3-1 運動能力・体力づくり						
	地域	2-1 交通安全教室							
			3-1 運動能力・体力づくり						

(図表 15、指標 3 の全体像)

(指標 3) 各種取組 {ねらい 1 環境整備、2 安全教育、3 体力づくり}

(凡例：①プログラム名 ②対象 ③場所 ④実施者 ⑤概要

⑥活動実績)

1 環境整備

1-1	①	遊具を安全に使用し、けが・事故を減少させる			ISS で新規に開始	
	②	園児	③	園内	④	保育士・職員
	⑤	1, チェック表 (写真入り、21 カ所) を開発し、安全をチェックする 2, 毎月ハードをチェックする 3, ヒヤリハットも活用する 4, 遊具の使用・周辺の安全使用 (ソフト) を開発する				
	⑥	チェック表開発 (2014 年 9 月) 毎月 21 カ所チェック (実績表あり)				

1-2	①	教材・玩具を安全に使用し、けが・事故を減少させる			ISS で新規に開始	
	②	園児	③	園内	④	保育士・職員
	⑤	1, チェック表 (写真入り、22 カ所) を開発し、安全をチェックする 2, 毎月ハードをチェックする 3, ヒヤリハットも活用する 4, 教材・玩具の使用・周辺の安全使用 (ソフト) を開発する				
	⑥	チェック表開発 (2014 年 9 月) 毎月 22 カ所チェック (実績表あり)				

1-3	①	設備に安全工夫をし、けが・事故を減少させる			ISS で新規に開始	
	②	園児	③	園内	④	保育士・職員
	⑤	1, コーナーの角とりパッド・階段の手すり・戸にストッパーを設置する 2, チェック表 (写真入り、21 カ所) を開発し、安全をチェックする 3, 毎月ハードをチェックする 4, ヒヤリハットも活用する				
	⑥	チェック表開発 (2014 年 9 月) 毎月 22 カ所チェック (実績表あり)				

1-4	①	産業医指導の労働安全衛生委員会活動で、けが・事故を減少させる				
	②	園児・職員	③	園内	④	保育士・職員・地域
	⑤	1, 毎月第 2 水曜日 13 時~14 時、鎌田産業医参加の会議を開催する 2, 健康診断・メンタルヘルス制度の普及 3, 産業医による環境チェック 4, ヒヤリハットの実施。				
	⑥	毎月の実施、ヒヤリハットによる改善 10 件 (12 か月で)				

2 安全教育

2-1	①	交通安全教室を実施し、けが・事故を減少させる				
	②	園児	③	園内・園外	④	職員・警察・専門家
	⑤	園児に交通ルールを教え、習慣づける 警察・協力員参加 1, 保育士が3色レンジャーに扮し交通信号の知識を教える 2, 1～2歳児は保護者・保育者と手をつなぎ、歩道を歩く 3, 3～5歳児は地面に描いた、交差点・横断歩道で実習する 4, 保護者にフォローを指導する				
	⑥	2013年度は'10/18, 2014年度は'4/10, '10/1に実施				

2-2	①	芋ほり・いちご狩りで安全教育を実施し、けが・事故を減少させる				
	②	園児	③	園内・園外	④	保育士・職員・地域
	⑤	1, 農具（鋤・鎌・スコップ）はさみ等の安全使用を教え実習する 2, 農園で土、野菜の学習。食物の扱い（洗う・煮る等）を教え実習する 3, 調理器具の安全使用と調理方法・食育を教え実習する 4, 作業後の手洗い習慣等の衛生教育と実習する 5, 園から農場までの交通安全教育と実習 年間8催事を計画				
	⑥	2014年度は, ①5/23 苺 4歳児 ②5/23 苺 5歳児 ③夏野菜種まき 5歳児 ④草花 3・4歳児 ⑤お泊り保育 5歳児 ⑥クッキング保育 3・4・5歳児 ⑦芋ほり 4・5歳児 ⑧芋ほり 3歳児				

2-3	①	避難訓練で非常事態・災害時に生き残り、けが・事故を減少させる				
	②	園児	③	園内・園外	④	職員・消防・地域
	⑤	各種避難訓練で非常時に備える 1, 避難訓練 地震火事は毎月 2, 消防署参加訓練は年2回 3, バス避難訓練 4, 救命講習（AED）は2年に1回 5, 園内にAED設置				
	⑥	2013年9月～ 1, 避難訓練、消防参加訓練、バス避難訓練、100%実施中 2, 救命講習（AED）は2014年5月17日に実施				

2-4	①	保護者への安全指導で、けが・事故を減少させる				
	②	保護者・園児	③	園内・園外	④	保育士・職員・地域
	⑤	1, 指導対象は、交通安全の指導・警報発令時の対応・感染症情報 2, 活用ツール 保護者会・イベントを活用、お便り、連絡帳、 非常・緊急時にはEmail 発信（受信の有無確認装置付） 3, キャンペーンの実施（例チャイルドシート使用・チェック）				
	⑥	カバー率（2014年度 295名、100%） 交通安全 3件（4月 7月 12月） 大雨警報他 4件（6月 8月 10月 2回） 感染症 4件（8月お多福かぜ、11月RS 12月・1月インフルエンザ）				

3 体力づくり

3-1	①	運動能力・体力を鍛え けが・事故を減少させる TSSで新規に開始				
	②	園児（3～5歳児）	③	園内	④	職員・地域
	⑤	「運動能力・体力があれば、けが・事故が少ないとの通説」を検証する 1, 3種目程度（柔軟体操 水泳 縄跳び）を対象でトライする 2, 年齢別に到達点で園児をグループ化（3グループ）する 3, 到達点は保育室に掲示する 園児は挑戦するが楽しませる 4, けが・事故との相関関係を究明する				
	⑥	1、プール遊びで初めて記録をとり始める 2、只今柔軟体操				

指標4、ハイリスクをカバーする長期・継続的予防活動を行っています

次の3つのプログラムです。

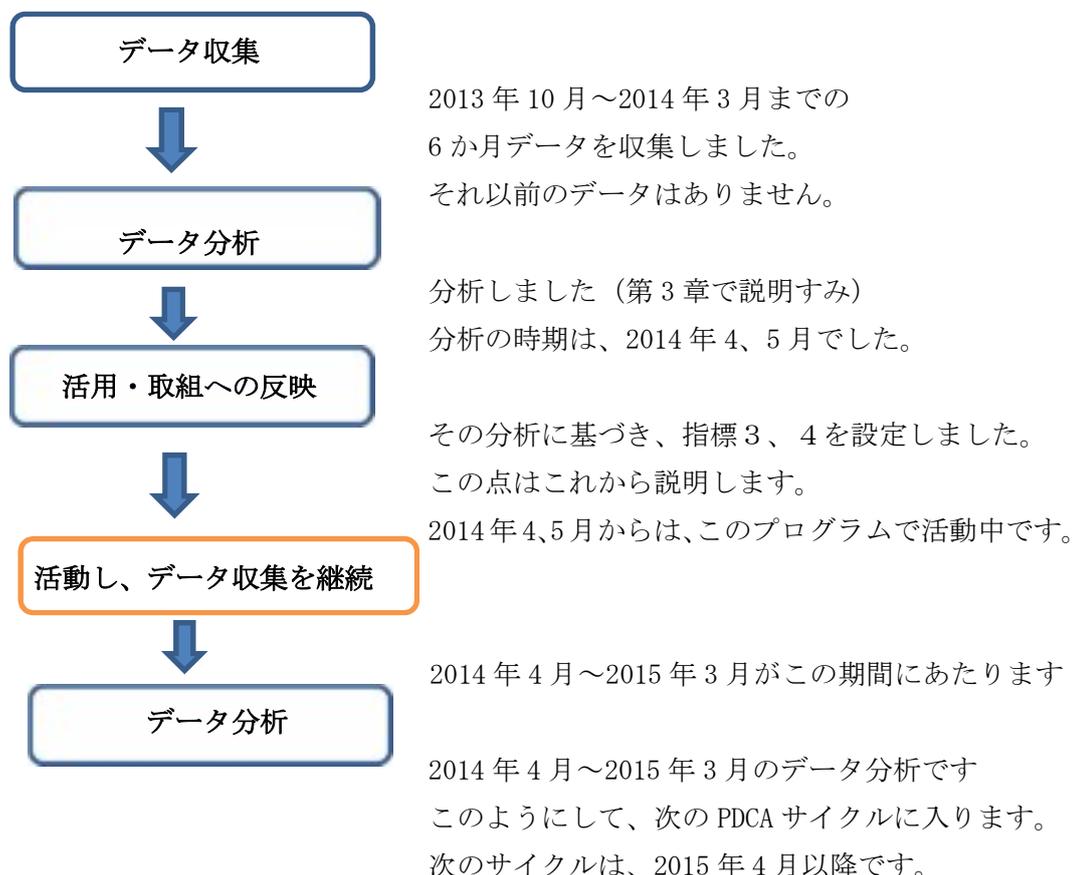
ハイリスク Group	① 保育園付近の危険な交差点での交通安全				
設定理由	保育園付近の危険な交差点で、けが・事故を減少させる				
現状	信号機がなく、坂で狭く視界も悪く、横からくる車に気が付かない 特に朝は集中混雑 保育園だけでも 220台 危険が高い				
目標（測定値）	危険な交差点での交通整理 けが・事故の数				
対策・測定	1、毎朝8時～8時30分は職員が交代で整理する（中谷・小川） 2、8時30分～9時30分は地域の協力者が交通整理する 3、臨時応援等で園長・副園長・主任が担当することもある （評価到達点）毎日の確実な実施、 けが・事故の数				
実施者	職員、地域	（対象者）保護者・園児・地域			
活動実績・評価	2013年10月～2014年3月 計画実施 100% 事故 1件 けが 0 2014年4月～2015年2月 計画実施 100% 事故 1件 けが 0				

ハイリスク Group	② イベント時の交通安全	
設定理由	イベント実施時には多数の来場者（車）があり危険	
現状	年7回のイベントがある。最大500台、700名。	
目標（測定値）	危険の交差点での交通整理 けが・事故の数	
対策・測定	1、臨時駐車場を確保する 2、当日のルールを事前に周知する 3、職員を特別配置して交通整理を行う	
実施者	職員、地域	(対象者) 保護者・園児・地域
活動実績・評価	2013年10月～2014年3月 計画実施100% 事故0件 けが0 2014年4月～2015年2月 計画実施100% 事故0件 けが0	

ハイリスク Group	③ 食物アレルギー園児の安全食（昼食、おやつ）	
設定理由	食物アレルギー問題を抱える園児が増加している 除去食（安全食）を実施する。最悪はアナフィラキシーで死に至る	
現状	食物アレルギー問題を抱える園児数 2013年10月 述べ11人 2014年4月 14人、2014年8月 14人	
目標（測定値）	除去食の実施で けが・事故を減少させる 確実な実施、事故の数	
対策・測定	1、アレルギーの種類・対応は医師の診断書に基づく 2、成長により多くが改善される。改善あればプランに反映させる 3、除去食一覧表に基づき 昼食おやつを当番専任制で調理・提供	
実施者	保育士・職員、	(対象者) 保護者・園児
活動実績・評価	<p>除去対象 卵 大豆 牛乳 ピーナッツ 山芋 青背魚 カニ 計</p> <p>2014年4月 4 1 4 1 1 2 1 14</p> <p>2014年9月 5 1 3 1 1 2 1 14</p> <p>2014年10月21日 ピーナッツで アナフィラキシー 1件発生</p> <p>事故発生の原因 除去食管理機能が人為ミス（4重）で機能しなかった。①納入業者が誤って納入した。②厨房担当が受取、配膳時に見落とした。③保育士が気づかず食べさせた17時30分 長時間保育時 ④18時0分 気分が悪いとの訴えに、保育士が菓子袋をチェックするが見落とす。</p> <p>園児は自宅で19時20分アナフィラキシー症状になり、病院へ緊急搬送、受診。</p> <p>対策 再発防止とマニュアル研修を行う（10/24より）全職員 対象 除去食対象者の再確認。氏名と除去食品を全職員に徹底。 エピペン講習を12/27より実施。保護者の同意を得て2/9よりエピペン預かり（在園中）。亀岡市2月23日講習会を開催（民間、市立保育所対象）他にも同様のケースあり。</p>	

指標 5、すべての取組みはデータ・根拠に基づいて実施しています。

亀岡あゆみ保育園は ISS 取組を宣言し、データを収集することから始めました。その方法は、亀岡市立保育所と共通方式です。(詳細は指標 6 で説明します)



けが発生状況(第3章で既述)から ➡対策「指標3、4」を設定しました。

1、医療機関を受診するけがは、7件でした。

(期間 2013年10月～2014年3月、けがの総件数156件 園児280名)

(注意: 亀岡あゆみ保育園では、受診数は保険請求でなく、受診すべてです)

- ① 当園・降園途上の保護者同伴時に、2件けが発生
保護者の手を振り切って走り転倒、禁止区域で縄跳びをして転倒。です。
 - ➡「2-4 保護者への安全指導で、けが・事故を減少させる」
 - ➡「2-1 交通安全教室を実施し、けが・事故を減少させる」を設定。
- ② 教材関連のけが 2件
 - ➡「1-2 教材・玩具を安全に使用し、けが・事故を減少させる」
- ③ けが総数を減少させれば、医療機関受診のけがも減少させるとのアプローチで活動しています。
 - ➡下記につづく

2、0~2歳児は、保育室内のけがが多く 53件（72%）発生しています。

受傷部位は頭部・顔部が大多数 52件（71%）です。受傷内容はTop1が打撲42件（57%）Top2は擦り傷16件（22%）です。他児との関わりは、8件（11%）でした。

0~2歳児のけがの特徴は、保育室でバランスを崩し転倒、あるいは物（他児）にぶつかり、頭部・顔部（特に前額部、頬部）を打撲する。あるいは擦り傷を負っています。自分で、あるいは他児によるひっかき傷もあります。

➡「1-3 設備に安全工夫をし、けが・事故を減少させる」

ぶつかってもけがをしない取組として設定しました。

➡「1-2 教材・玩具を安全に使用し、けが・事故を減少させる」

ぶつかっても、乗り上げても（ふみつけても）けがをしない取組として設定しました。

3、3~5歳児は、園庭・グラウンドでけがが多く 40件（42%）発生しています。

受傷部位はTop1が下肢 51件（62%）、頭部・顔部は乳児より大幅に減少するがTop2で 21件（26%）です。受傷内容はTop1が擦り傷 55件（67%）、Top2は打撲 13件（16%）乳児と順位が入れ替わるが、Top1、Top2で83%です。他児との関わりは 17件（21%）でした。腕が顔に当たるけが等です。

3~5歳児のけがの特徴は、園庭・グラウンドを走り回り転倒、衝突する。遊具周辺でのけがが多い（遊具でのけが、遊具周辺でのけが）。下肢を擦りむく受傷です。

➡「1-1 遊具を安全に使用し、けが・事故を減少させる」

4、年齢によるけが部位の変化（頭部・顔部と下肢のけが）、3~5歳児は転倒時に手が出るから頭部・顔部のけがが少なくなる、即ち「運動能力が高い」「十分な体力」がけがを減少・軽傷化させているようだ。ISSで実証しようと挑戦します。

➡「3-1 運動能力・体力を鍛え けが・事故を減少させる」

5、発生場所が、上駐車場、外道路、その他でのけが20件は殆どが保護者（保育士）

同伴時に発生しています。それは「保護者と手をつなぐ（保育士の場合は他の園児）」というルールを無視し、発生したけがです。「安全教育で、いい習慣を身につけ

けがを減らす」。この観点から、

➡「2-4 保護者への安全指導で、けが・事故を減少させる」

➡「2-1 交通安全教室を実施し、けが・事故を減少させる」

➡「2-2 芋ほり・いちご狩りで安全教育を実施し、けが・事故を減少させる」

6、非常事態に直面しても「生き延びる」「けがを少なく」するため

➡「2-3 避難訓練で非常事態・災害時に生き残り、けが・事故を減少させる」

7、当法人は毎回産業医が参加・指導する労働安全衛生委員会を毎月開催しています。

職員、利用者（園児）対象の安全活動です。産業医による現場チェックと指導、並びに「ヒヤリハット」は具体的に成果を測定可能です。この手法も ISS のプログラムに入れ、予測されるけがを減らします。ヒヤリハットとは、重大なけが・事故に至らないものの、重大な事故・けがに直結してもおかしくない一歩手前の事例発見です。よく知られた安全構築手法です。

➔ 「2-4 産業医指導の労働安全委員会活動で、けが・事故を減少させる」これらのプログラム「指標3」とハイリスクをカバーするプログラム「指標4」は保育園内・外に共通のプログラムとして設定しました。

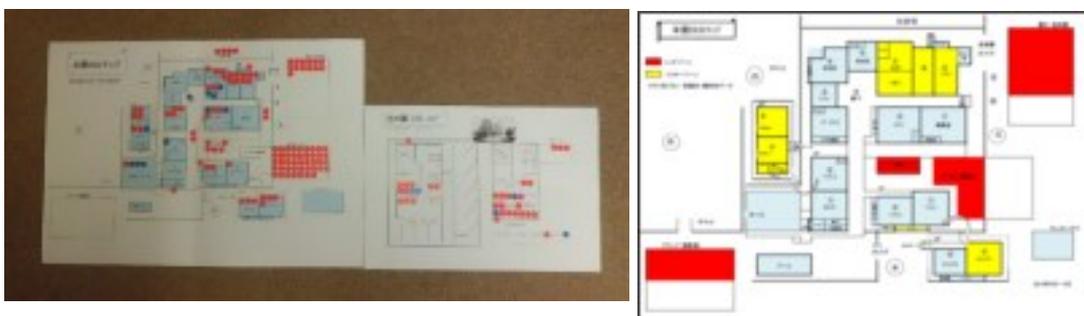
次の事例も データ・根拠に基づき活動している事例として報告します。

対策1、医療機関の受診は4%と低いことから、けがを恐れず、元気に遊ばせようとの判断から、亀岡あゆみ保育園のISSスローガンは、

「元気に走ろう 遊ぼう けがのない あゆみの子」を継続としました。

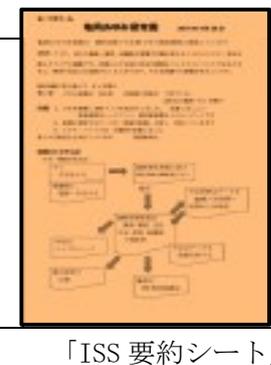
対策2、「安全マップ」から色分けマップを開発しました。

けがの多発施設・場所（レッドゾーン）、要注意施設・場所（イエローゾーン）、その他（ホワイトゾーン下記図表では空色）に色分けしました。注意を喚起するツールです。馬堀駅前分園はすべて黄色です（ここでは省略）。



(2013年10月～2014年3月 安全マップ) ➡ (色分けマップ)

対策3、「ISS要約シート」「17の秘訣」を開発しました。

<p>「ISS要約シート」とは、</p> <p>表面は けがが発生時何をすべきか その後のプロセスを説明</p> <p>裏面は けがを排除する 17の秘訣</p>		
---	--	---

「ISS要約シート」

17の秘訣

保育士として、長年の経験から「けが排除の秘訣（17項目を）」を全員にシェアし、活動しています。

対策4、医師を受診するケースは、詳細を記録・分析・対策しています。

指標6、亀岡あゆみ保育園は、外傷の頻度と原因を継続的に把握するシステムを構築しています。

亀岡あゆみ保育園は、2013年9月～2014年3月の6ヶ月期間に「外傷の頻度と原因を継続的に把握するシステム」（亀岡保育園共通システム, 既述）を構築しました。そのシステムでデータ分析を行い、2014年4月以来「亀岡あゆみ保育園プログラム」を推進中です。

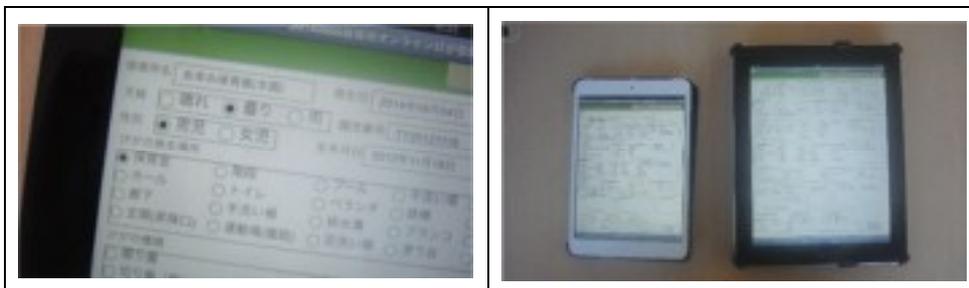
1、けがデータの収集と記録の方法は、

- 1、施設の見取り図を、誰でもが見られるところに設置しました。安全マップです。
- 2、園児が「けが」した際、「けがの状況」シートに担当職員が記載します。

「けがの状況」シートは、亀岡市立保育所と共通の統一様式です。

園児名、けが発生場所、けがの状況（部位、けがの種類）、原因、対人の有無、発生状況、処置等記入します。このシートは記録として保存します。

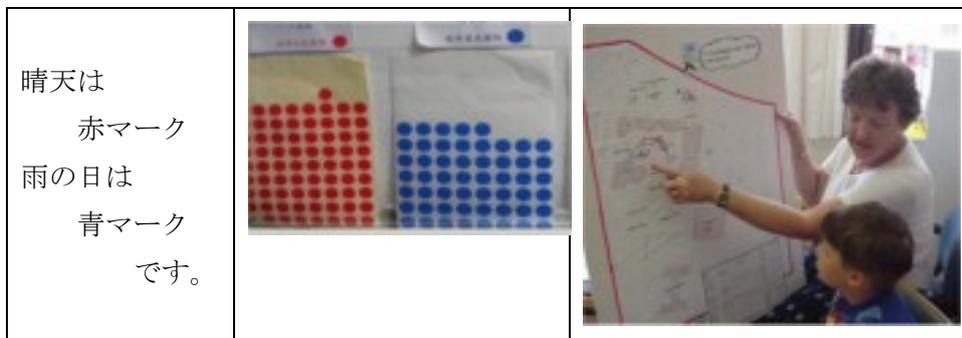
亀岡あゆみ保育園は、データを iPad で医師（府立医大）に発信しています。専門家の助言をとり入れるシステムです



共通様式

iPad

- 3、けが発生場所を「安全マップ」にマークします。



- 4、医療機関の受診を必要とする「けが」は、「事故報告書」を作成します。医療機関を受診するか否かは、看護師・主任保育士・副園長が判断します。

「事故報告書」は亀岡あゆみ保育園独自の形式です。

- 5、担当職員は園児がけがをした際、どの様にしたら防げたかを能力に応じ考えさせます。
- 6、医療機関を受診したケースは、関係者に状況をシェアし、対策を考えます。

2、亀岡あゆみ保育園のPDCAアプローチを図表化すると、

目的	けが・事故を減少させる
目標(到達点)	医療機関受診のけがを減少させる (件数で測定) けが・事故の総数も減らす (件数で測定)
対策	1、環境改善、安全教育、体力づくり、ハイリスクをカバーするプログラムを実施する(指標3、4の実施) 2、各々のプログラムは個別に評価するが、総合評価はこの件数
具体的活動概要	1、安全マップによるけが・事故の記録 2、iPad活用、医師の助言も取り入れ可能なシステム構築 3、ヒヤリハット活用 4、PDCAアプローチによる行動、当分の期間は1年単位でアプローチ 5、進行・成果の広報
実施者	職員、地域 (対象者) 園児、保護者、職員、地域
活動実績	①2013年10月～2014年3月、医療機関受診けが7件 けが総数156件 園児数280名、ヒヤリハットによる改善5件 ②6ヵ月データ分析によるPDCA(2014年4月～) マップを色分け 赤色(危険)黄色(注意)、 けが排除「17の秘訣」、指標3、4の実施 ③2014年4月からの6ヶ月間 医療機関受診けが10件 けが総数313件 園児289名で ヒヤリハットによる改善5件 ④2014年9月～は集計中ですが 後述します

(図表16 亀岡あゆみ保育園のPDCAアプローチ)

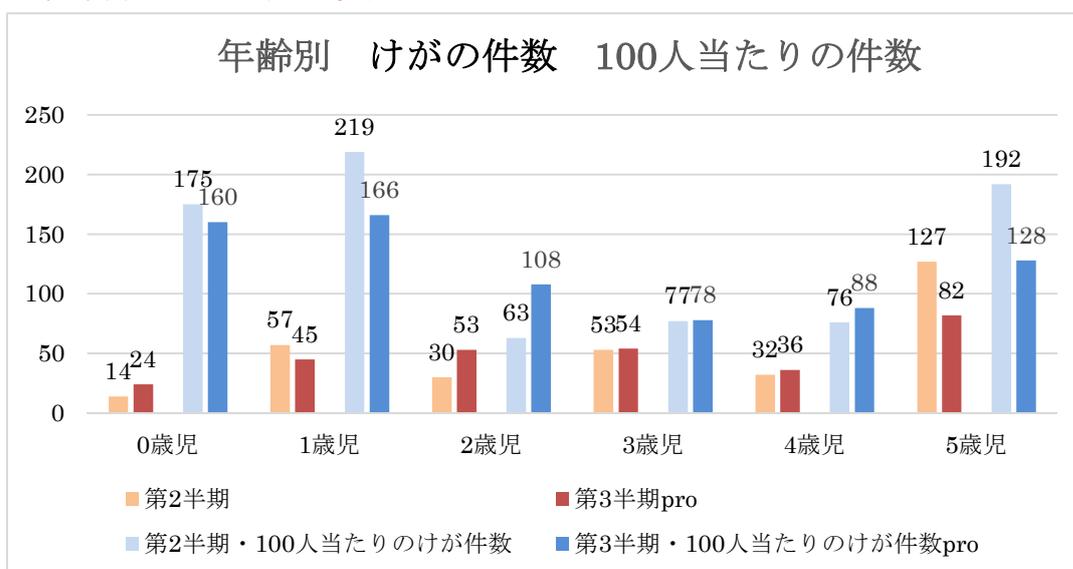
「外傷の頻度と原因を継続的に把握するシステム」が構築されている証拠に、2014年4月以降のデータは次のように把握しています。3月までの1年間データ・根拠で次のPDCAを展開する予定です。

3、外傷の頻度と原因の追究をこのように行っています。

以下では、2013年10月～2014年3月を 第1半期で（第3章けがの発生で既述）
 2014年4月～9月を 第2半期
 2014年10月～2015年3月を 第3半期と表示しています。
 只今は2月までの実績ですから 第3半期 pro の表記は
 5か月間の実数を6ヶ月間に projection（推測値）しています。

第2半期、第3半期につき説明します。（この1年を今後のBench Mark= 基準とします）

1、年齢別 けが発生状況は



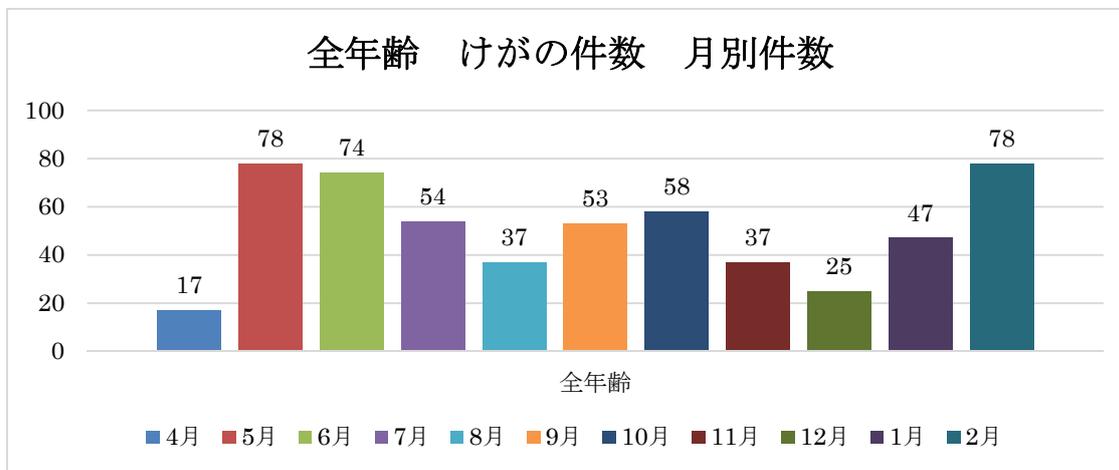
（図表 17 、期間 2014年4月～2015年3月、けがの件数 607 件、当園 ISS データ）

けがの件数は、年齢別に差異があります。年齢による園児数も差があるので、100人当たりのけが人数も分析しています。100人当たりのけが数では、0歳児、1歳児、5歳児が多いです。1歳児・5歳児は第2半期より第3半期けがが減少しています。

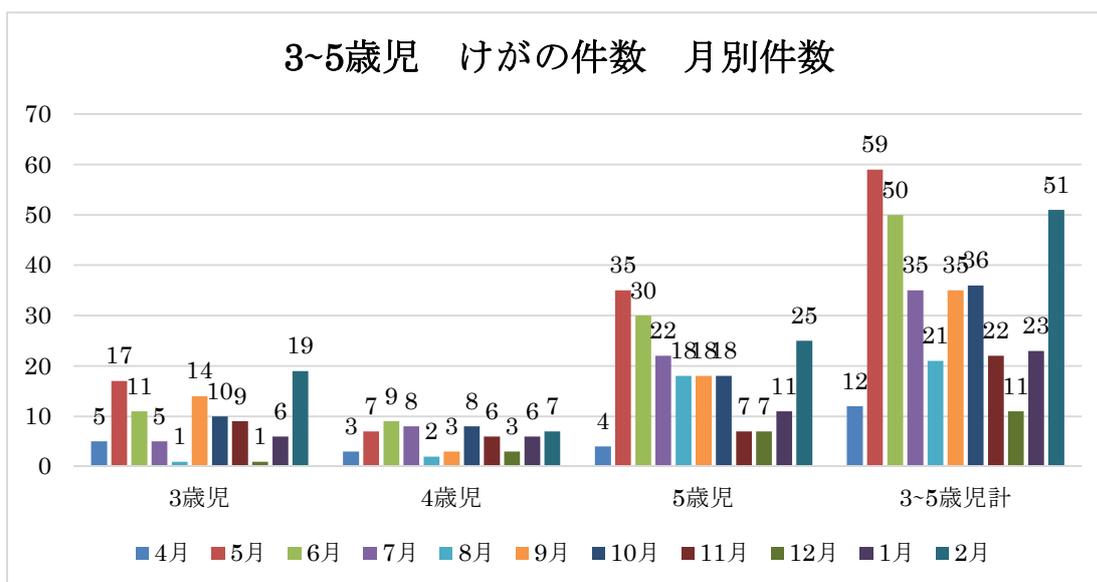
注意）園児数は絶えず変動しています（特に0歳児は大きく変動します）。期間の最終人数でカウントしています。

季節変動を検証するため、月別分析も行っています。

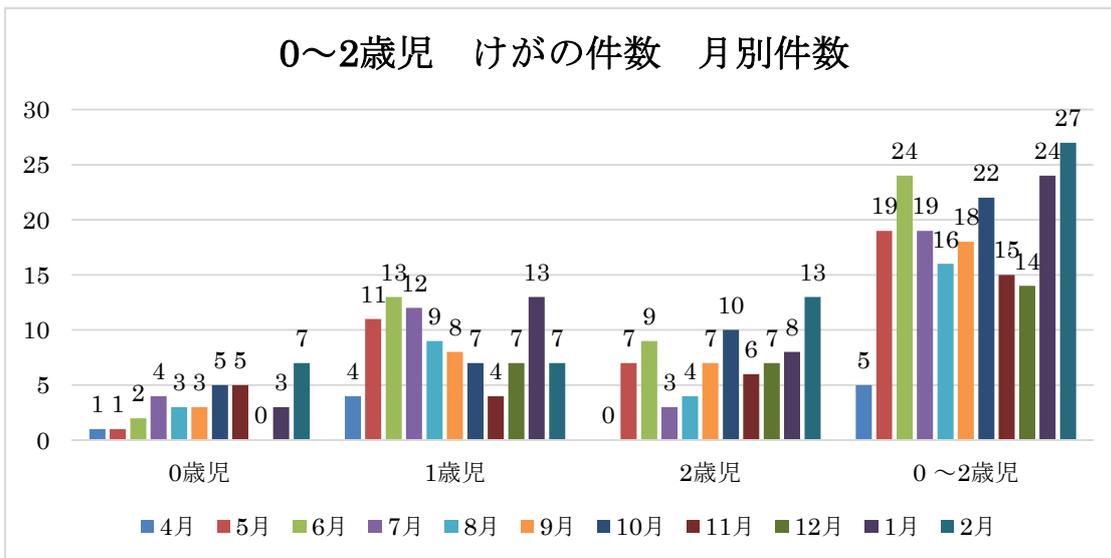
2、年齢別 月別けがが発生状況は



(図表 18、期間 2014 年 4 月～2015 年 2 月、けがの件数 558 件、当園 ISS データ)
年齢別には、



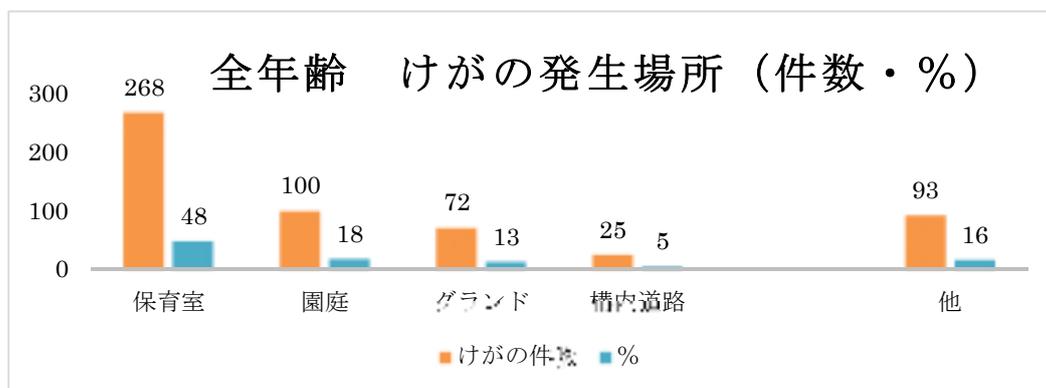
(図表 19、期間 2014 年 4 月～2015 年 2 月、けがの件数 355 件、当園 ISS データ)



(図表 20、期間期間 2014 年 4 月～2015 年 2 月、けがの件数 203 件、当園 ISS データ)

月別にけが数は、大きな変化があります。年齢別にも変化があります。そして変動のパターンは年齢別に同じではありません。注意深く分析する必要があると判断しています。

3、けがの発生場所



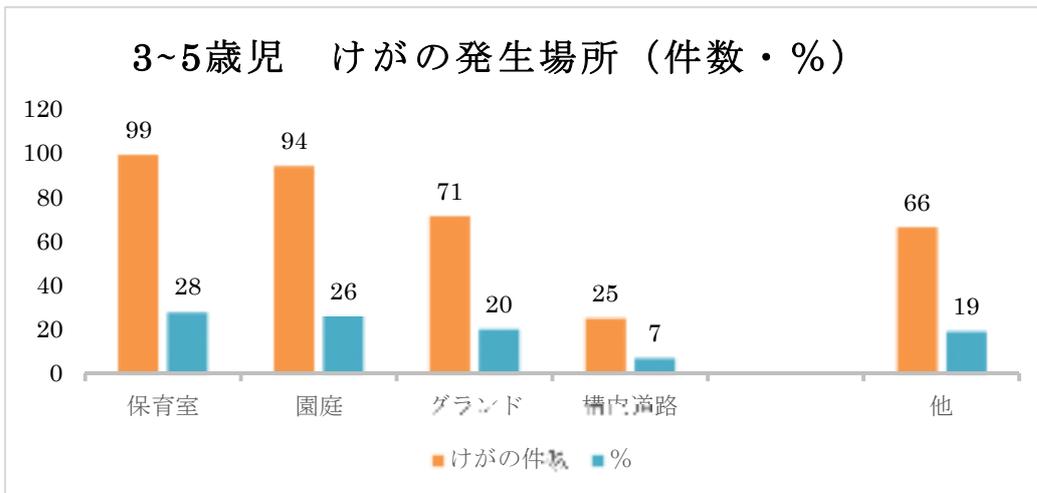
(図表 21、期間 2014 年 4 月～2015 年 2 月、けがの件数 558 件、当園 ISS データ)

全年齢では、保育室、園庭、グラウンド、構内道路で 465 件 (全体の 84%) のけがが発生しています。

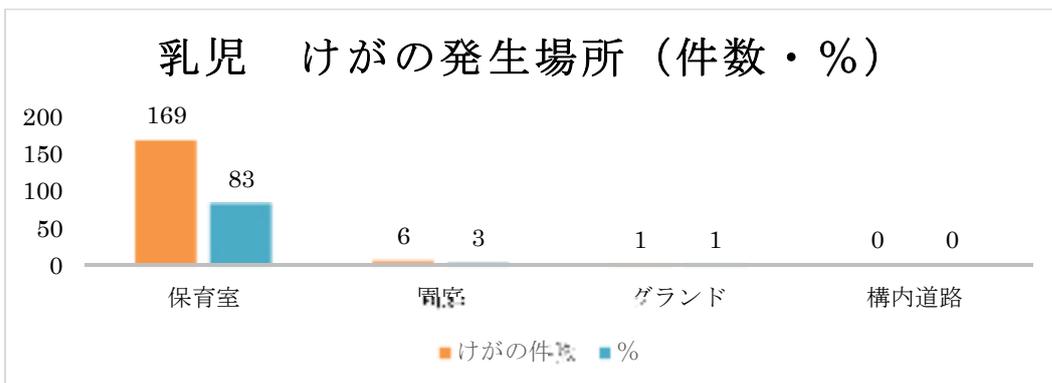
年齢別に分析すると、けが発生場所には大きな差異があります。

3～5 歳児では、保育室で 99 件 (355 件の 28%)、園庭で 94 件 (26%)、グラウンドで 71 件 (20%)、構内道路で 25 件 (7%)。この 4 か所で 289 件 (81%) のけがが発生しています。

0～2 歳児では、保育室で 169 件 (203 件の 83%) 発生です。



(図表 22、期間 2014 年 4 月～2015 年 2 月、けがの件数 355 件、当園 ISS データ)



(図表 23、期間 2014 年 4 月～2015 年 2 月、けがの件数 203 件、当園 ISS データ)

4、安全マップでもけが状況は、容易に判明します。

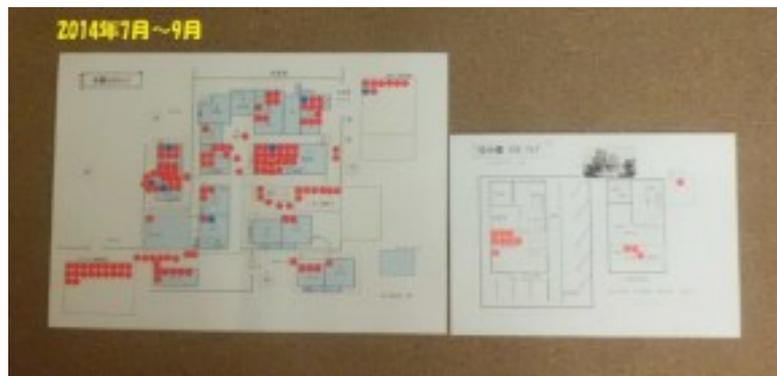
3 か月単位で、収集しています。

2014 年 4 月～6 月は、



(図表 24、期間 2014 年 4 月～2014 年 6 月、けがの件数 169 件、当園 ISS データ)

2014年7月～9月は、



(図表 25、期間 2014 年 7 月～2014 年 9 月、けがの件数 144 件、当園 ISS データ)

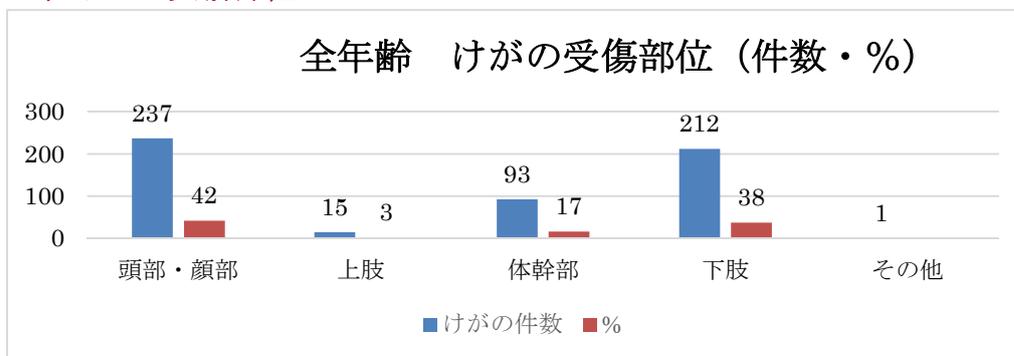
2014年10月～12月は、けが件数 120 件 (マップ省略)

2015年1月～2月は、けが件数 125 件 (マップ省略)

4枚の安全マップ(11か月間)から読み取れる傾向は、

保育室により、大きな差異があります。同年齢児の保育室は隣合わせで、よく似た環境です。クラス人数(一人当たりの床面積)も大差がありません。しかしけがの件数にはかなり差があります。活動しながら、慎重に原因を究明していきます。

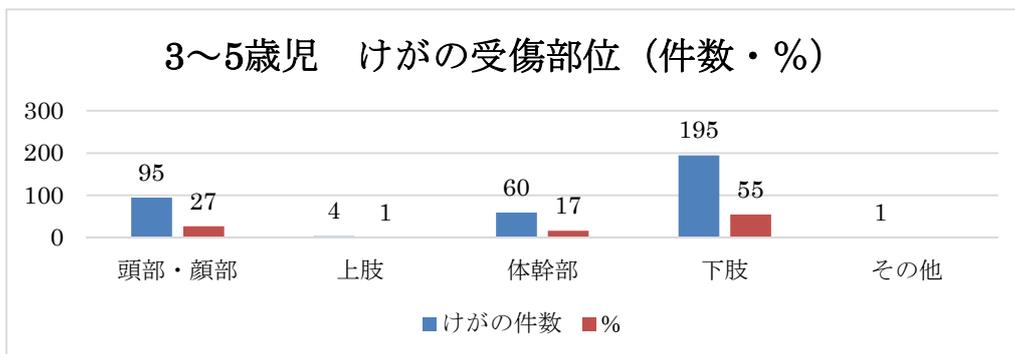
5、けがの受傷部位は



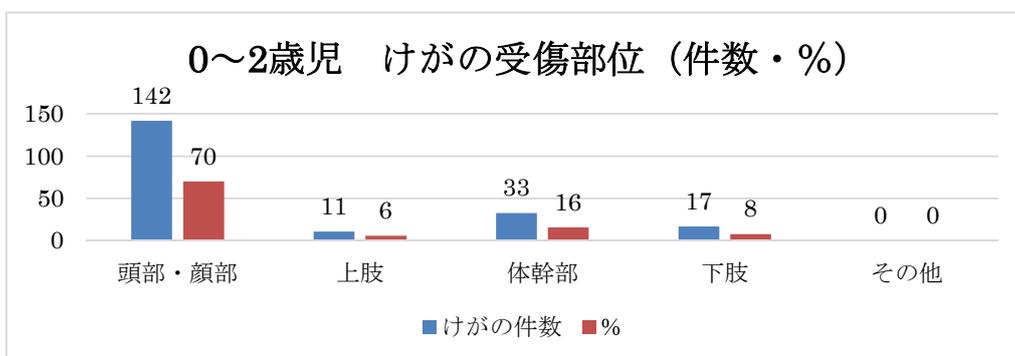
(図表 26、期間 2014 年 4 月～2015 年 2 月、けがの件数 558 件、当園 ISS データ)

Top1 は頭部・顔部で 237 件 (けが全体の 42%)、Top2 は下肢で 212 件 (38%) です。この 2 部位で 449 件 (80%) を占めます。

年齢的に分析すると、



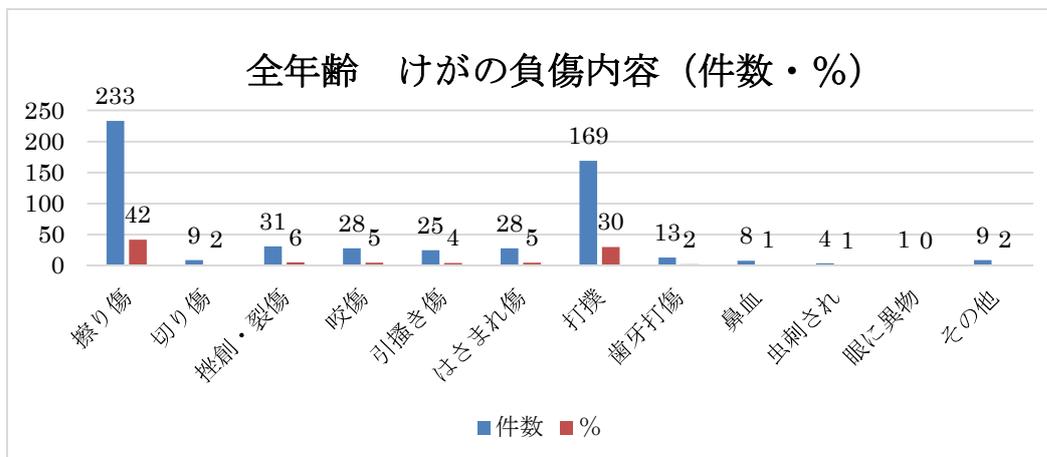
(図表 27、期間 2014 年 4 月～2015 年 2、けがの件数 355 件、当園 ISS データ)



(図表 28、期間 2014 年 4 月～2015 年 2、けがの件数 203 件、当園 ISS データ)

年齢別には、0~2 歳児では頭部・顔部が 70%と圧倒的に多く、3~5 歳児では下肢が 55%と年齢による差が発生しています。これは身体的成長で下肢、上肢が発達し、低年齢では頭部にあった重点が下がるとともに、転倒時に手が出て支え、頭部・顔部のけがが減少、一方下肢のけがが増加しているようです。分析を続け対策を考えます。次の負傷部位の分析でも同じ推測が成り立ちます。

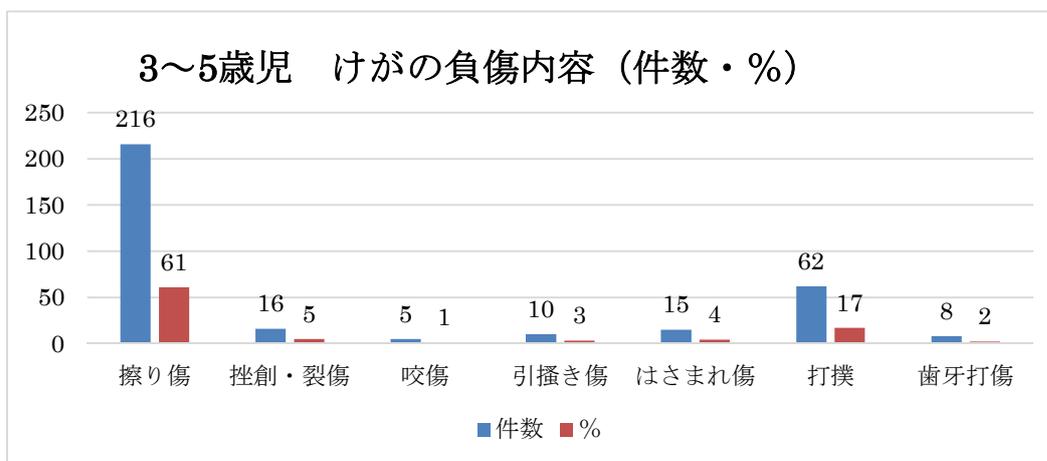
6、けがの負傷内容は、



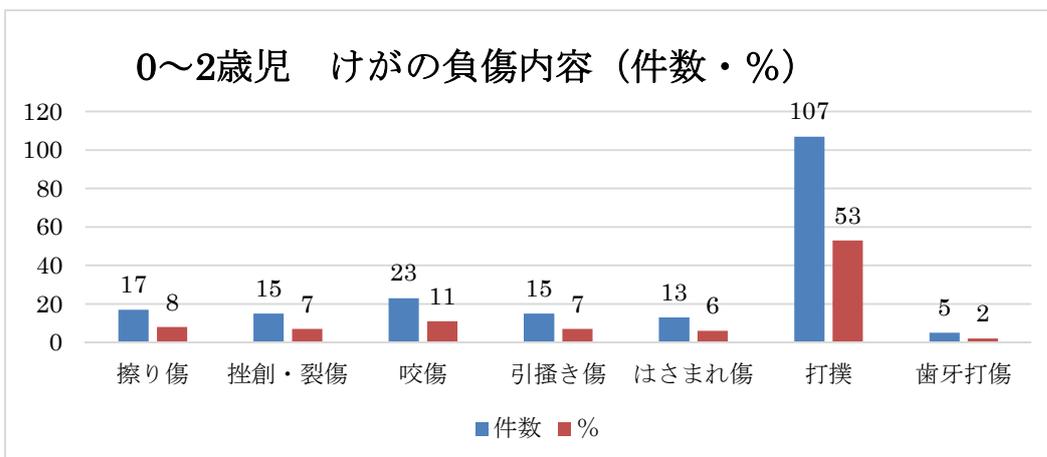
（図表 29、期間 2014 年 4 月～2015 年 2 月、けがの件数 558 件、当園 ISS データ）

全年齢では、Top1 が擦り傷で 233 件（42%）、Top2 が打撲で 169 件（30%）
この 2 つで 72% を占めます。

年齢別に分析すると



（図表 30、期間 2014 年 4 月～2015 年 2 月、けがの件数 355 件、当園 ISS データ）



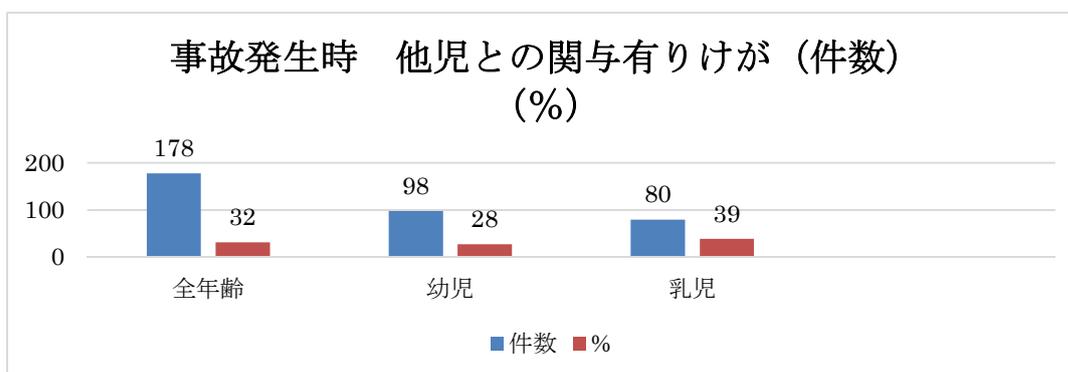
（図表 31、期間 2014 年 4 月～2015 年 2 月、けがの件数 203 件、当園 ISS データ）

0～2 歳児では打撲が圧倒的に多く 107 件（55％）を占め、擦り傷は 17 件（8％）にすぎません。しかし 3～5 歳児では Top1 は擦り傷で 216 件（61％） Top2 は打撲で 62 件（17％）と逆転します。受傷部位と負傷内容は密接な関係があることがうかがえます。

0～2 歳児の咬傷 23 件（11％）も重要なファクターです。1 歳児の咬みつき（他児に咬みつく・引掻きもあり）は保育業界では、特に注意を払い対応している事項です。

7、他児との関与は

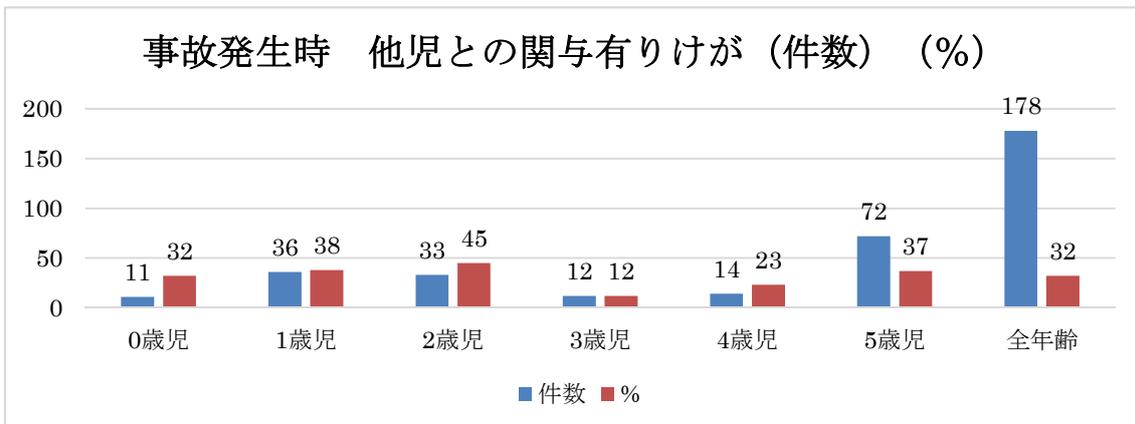
ここでの分析は、けがが発生した場合①単独（自分だけでの行為による）のけがか、②他児との関連で発生したけがかの分析です。



（図表 32、期間 2014 年 4 月～2015 年 2 月、けがの件数は、全年齢は 558 件、3～5 歳児は 355 件、0～2 歳児は 203 件、当園 ISS データ）

他児との関わりでのけがは、全年齢が 178 件（32％）、3～5 歳児が 98 件（28％）、0～2 歳児が 80 件（39％）で、年齢による差があります。

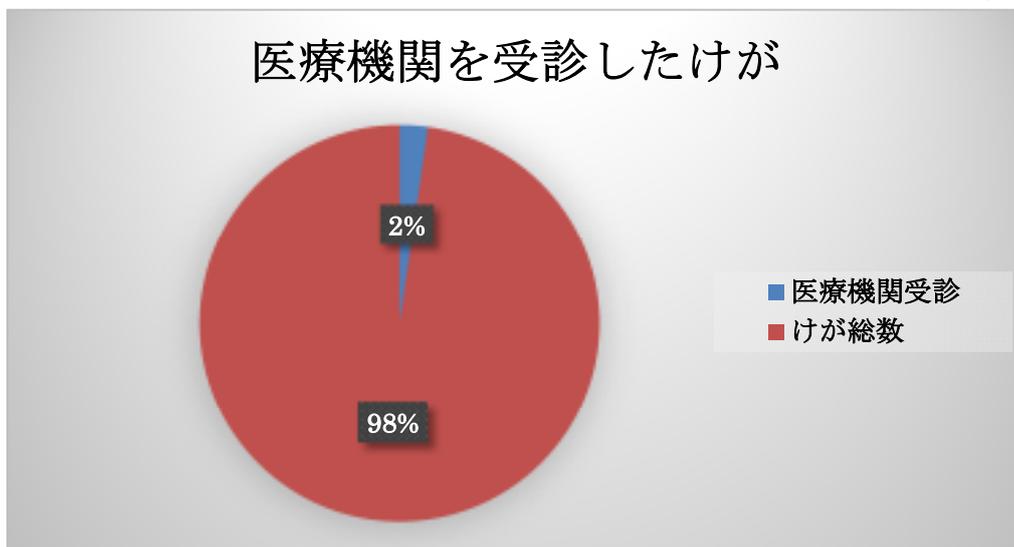
更に年齢別に詳しく分析すると、



(図表 33、期間 2014 年 4 月～2015 年 2 月、けがの件数 558 件、当園 ISS データ)

0 歳児・1 歳児・2 歳児と成長するにつれ少しずつ%が増加、3 歳児・4 歳児で減少 5 歳児でまた増加しています。引続き観察・分析します。

8、医療機関を受診したけがは、13 件 けが総数 (558 件) の 2%です。



(図表 34、期間 2014 年 4 月～2015 年 2 月、けがの件数 558 件、当園 ISS データ)

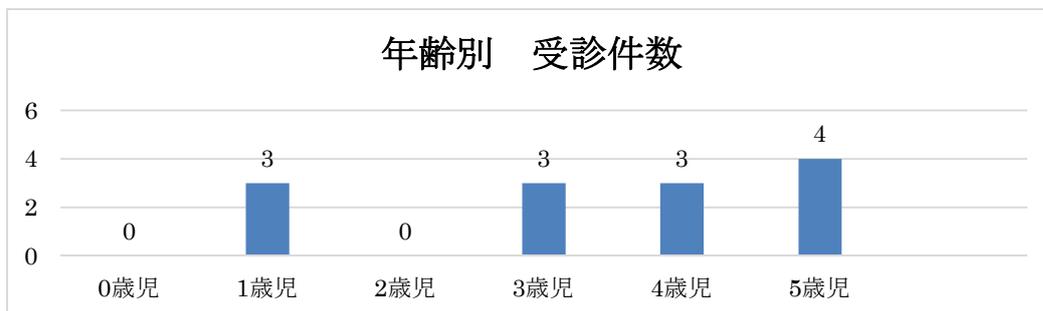
亀岡あゆみ保育園の場合、「医療機関受診」とは医療機関を受診したとの事実による選別です。小学校・中学校のようにスポーツ保険の対象か否かが選別基準ではありません。

受診の適否は、看護師・副園長・主任保育士が判断しています(既述のように)。

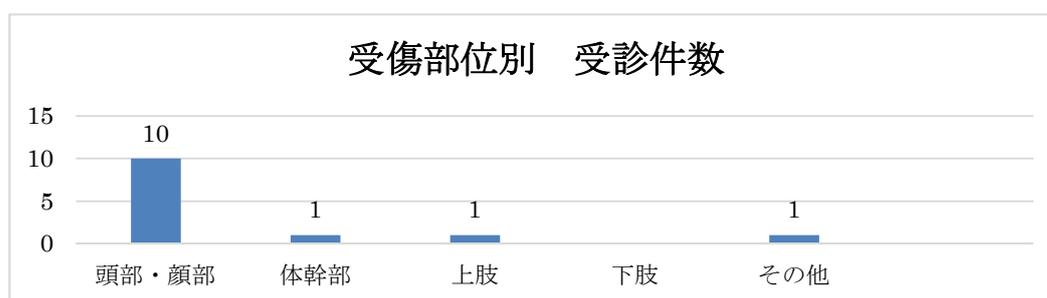
(注意) 保育園の場合は、保護者との関連も重視し、手厚い目の受診を旨としています。

例えば歯牙打撲で血がにじむ程度でも受診します。

医療機関を受診したけがの件数・受傷部位の分析です。



(図表 35、2014 年 4 月～2015 年 2 月、医療機関受診けがの件数 13 件、当園 ISS データ)



(図表 36、2014 年 4 月～2015 年 2 月、医療機関受診けがの件数 13 件、当園 ISS データ)

受傷件数は、1 歳児・3 歳児・4 歳児が各々 3 件、5 歳児が 4 件です。(図表 35)

受傷部位は、頭部・顔部が 10 件、体幹部 1 件、上肢 1 件、その他 1 件で、圧倒的に頭部・顔部です。(図表 36)

負傷内容は、歯牙打撲が 4 件、打撲 3 件、引っ掻き傷 2 件、切り傷 1 件、虫刺され 1 件、その他 2 件でした。(図表なし、記録より)

けが発生場所は、保育室が 11 件、園庭 1 件、非常階段 1 件でした。

(図表なし、記録より)

ISS 対応の典型的なけが事例 4 件を紹介します。

No. 2	4 歳児	氏名略	女	馬堀・西田歯科	顔面	歯牙打撲	第 2 園庭
2014 年 '5/8	園庭での戸外遊び時、太鼓橋から降りるときに手足を滑らし、地面に顔をぶつける。口の中の出血及び上唇と鼻の頭に擦り傷ができる。歯科を受診し、傷部の消毒とレントゲンを撮ったが、異常は見られず経過観察(*)となった。						
*経過観察とは、これで終了の意(再診すれば記録する)							
No. 3	5 歳児	氏名略	男	並河歯科	顔面	歯牙打撲、鼻血	保育室
2014 年 '5/21	午睡の準備時、本児自らクルクルと回っており、その後ふらついて転倒し、床に顔をぶつける。鼻血が出て、歯牙打撲による出血と上前歯 1 本のぐらつきが見られた。歯科を受診し、消毒をしてもらったが、視診では異常が見られず、経過観察となった。						

No. 10	5歳児	氏名略	男	亀岡シミズ病院	顔面	打撲、擦り傷	非常階段
2014年 '8/21	ホールに行く途中、すみれ1奥の非常階段を下り、下2段目から足を踏み外して転落した。手をつかずに顔面を直撃し、前額部にこぶと擦り傷、鼻部と膝部に擦り傷が出来、右の鼻から鼻血が出る。すぐに前額部が腫れてきたので、簡単な処置後病院を受診する。脳外科にてCTを撮るが脳に支障はなく、鼻血もすぐに止まったので、経過観察となる。						

No. 12	5歳児	氏名略	男	並河歯科	口	歯牙打撲	保育室
2014年 '1/5	朝の受け入れ時、他児を追いかけて室内を走り回っていた時、滑ってドアの角で前額部を強打する。すぐに内出血と周囲の腫れが確認された。頭部のケガなので病院を受診し、外科にて消毒とバンドエイドを処置、経過観察となった。						

これらのけがは、亀岡あゆみ保育園のISS取組において大変参考になる事例で、取り組みを深く理解できた出来事でした。

指標7 予防活動の効果・影響を長期にわたり、測定・評価する仕組みをもっています。

全施設あげて長期的にISS活動に取り組める環境（背景）を整えました。

- 1、亀岡あゆみ保育園が「ISS活動を恒常的に保育プログラムに取入れる」ことを法人理事会・評議員会（2013年12月17日開催）でプレゼンテーションし承認を取り付けています。2015年2月23日には、経過と認証申請書提出を報告しました。
- 2、2015年4月に開設の上西山分園も、ISS活動の施設（場）とします。
- 3、「保育課程」（保育園の基本プラン）にも明記しています。

中期・長期視点も組み入れた「亀岡あゆみ保育園ISSプログラム」は次のとおりです。

目標時期を、短期は2015年3月まで、長期は2019年4月以降とする視点で計画し活動しています。各々の期間に区切り、活動領域、活用データ、目標、目標達成評価方法等を設定しています。今年の3月までを基礎期間（ISS開始学習期間）として、この段階を終了。4月からは中期と判断しています。即ち、行動によりデータに変化を反映させる時期です。中期ではけが・事故の数を直接把握しながら、同時に、態度・行動の変化を測定する方法を開発する必要があると考え準備しています。

このことをチャート化すると次のようになります。

(プログラム名) 亀岡あゆみ保育園 ISS プログラム (図表 37)

目的 (大きな目標)	保育園でのけが・事故を減少させる	
目標 (具体的目標)	・医療機関を受診するけが・事故を減少させる けが・事故の総数も減少させる	
インプット (活用する資源)	(人材) 保育士、園児、保護者 (財源) 京都府、亀岡市、亀岡あゆみ保育園 (施設) 亀岡あゆみ保育園の全施設 (キッズハウス含む) (既存の取り組み・事業) 保育園のけが・事故予防活動 産業医指導の労働安全衛生委員会活動、 ヒヤリハットによる施設・行動の改善活動	
アウトプット (取組の対象者・内容・実績)	(対象者) 園児、保育士、保護者 (取組内容) ・けがを記録し、安全マップを作成する ・医療機関を受診するけがは詳細を記録・分析 ・けがの発生原因・課程を究明し、 環境・行動を改善する (活動実績) ・亀岡あゆみ保育園 ISS プログラムを作成 ・2014 年度プラン・PDCA を展開中	
アウトカム (成果)		
短期の成果	中期の成果	長期の成果
(目標時期) 2015 年 3 月 (データ) 基礎データ入手 自己データ活用 (目標) けが・事故の数 認知度でも測定 (領域) 保育園内と 登降園時	(目標時期) 2019 年 3 月迄 活動がデータに反映始める 外部データも使用始める (目標) けが・事故の数 行動変化でも測定 意識の変化も 測定対象とする 領域) プログラム順次拡大	(目標時期) 2019 年 4 月～ けが・事故で効果実証 外部データも使いこなす (目標) けが・事故の数 領域) 保育園と 園児の家庭

3 つのねらいについては次ページに記述します。

3つのねらい（分野）の短期・中期・長期

(図表 38)

対策	短期・中期の測定・評価	長期の測定・評価
環境安全 遊具の安全 教材・玩具の安全 施設に安全工夫 産業医指導の安全	けが発生の要因を理解する ハード面の安全確保 ソフト面の指導・行動の ノウハウを開発・実行する	医療機関受診のけがの件数 けが・事故の件数
安全教育 交通教室 芋ほりで安全教育 避難訓練 保護者支援の安全	けが発生の要因を理解する 安全教育の効果を 子ども・保護者の行動変化で 測定する方法を開発する	医療機関受診のけがの件数 けが・事故の件数
運動能力・体力づくり	能力・体力とけがの相関関係を 見出すプログラムを開発	医療機関受診のけがの件数 けが・事故の件数

指標ごとの評価と改善・プログラムの進行管理

1年単位のPDCAアプローチで活動しています。前述の亀岡あゆみ保育園「保育課程・年間計画」と連動のため。また活動開始で学習段階の現時点では、原則「1年単位のサイクル」がベターと判断しています。指標ごとには具体的に設定した評価を行います。

取組の成果として次の事例があります。 「職員の意識調査」

6か月経過時点（2014年4月）で、職員のISSに関する簡単な意識調査を実施、気楽なディスカッションを実施しました。70名（新入者有）の職員から114件の反応がありました。

(図表 39 職員の行動)

項目	件数	%
具体的に行動を起こした	32	28
行動を変化させようと意識している	44	39
ISS 実行のため提案を行った	28	24
啓発段階にある	10	9
合計	114	100

この調査に続き、気楽なディスカッションで、ISSの啓発・熟知がさらに必要と判断しました。その目的で、「ISS要約シート」「17の秘訣」（指標5で説明）を開発するに至りました（既述）。

指標 8、国内・国際ネットワークへ継続的・積極的に参加しています。

- 1、清水小学校の再認証審査（2013年10/9、厚木市）へ参加
- 2、安全安心まちづくりフォーラム（2014年2/22、亀岡会場）で発表
ブースで広報活動・分科会で発表「保育園はISS活動の宝島だ」(PTT)を実施。
- 3、市主催 交通安全教室（2014年4/10、桜公園）に5歳児62名・保育士3名が参加



2014年2月22日



2014年4月10日

- 4、亀岡市SC推進会議（2014年5/23、市民ホール会場）で
「亀岡あゆみ保育園のISS挑戦」(PTT)を発表
- 5、「地域問題研究所」府立大。青山教授主宰の機関誌に「篠町SC活動」を執筆
- 6、京あんしんこども館での研修（2014年6/12）に保育士2名が参加
- 7、「遊具の事故から子どもをまもる」危機管理研修 三浦梓保育士参加
2014年7月22日 亀岡市、(株)ジャクエツ共催
- 8、「ISS研修会 西日本セッション」 第1部 白石講師、第2部 朴講師
井内、長野が参加 2014年8月4日 市民ホール
- 9、横浜市栄区主催SC会議パネルディスカッションに井内が参加 2014年10月4日
- 10、福井県主催「安全・安心のまちづくり」で井内講演 2014年10月11日
- 11、「SCシンポジウム in あつぎ」で基調講演（井内入院、井内原稿で山内勇氏代理）
2014年10月28日
- 12、SC関西フォーラム 2015年1月31日 亀岡市会場（松原市、甲賀市共催）
井内邦典園長が、日本SC推進機構（白石代表）から
「功労賞」を受賞（2006年以来の取組み・普及活動での貢献）
第1部、基調講演には、長野、中谷、松本、井内の4名が参加。
第2部、分科会には、松本（自殺G）、井内（子どもG）が参加しました。

第6章 今後の課題と対策

亀岡あゆみ保育園は、以前からの安全取組みに ISS 視点を加えプログラムを改善しました。6ヶ月間の短い期間ですが、データ分析から新しく ISS 活動プログラムを作成しました。

課題1) データ

2013年10月～2014年3月の6ヶ月間に、保育園統一データ収集方法を取入れました。この間はデータ収集実行上の試行錯誤、職員の個人差もあります。

「対策」 亀岡あゆみ保育園は2014年4月からの1ヶ年データを基礎データとし、今後の活動の Bench Mark とします。

課題2) 安全教育によるけが事故の減少の測定・評価

指標3の、「安全教育によるけがの減少」、「避難訓練により生き残り・けがを減少」のタイプは、けが・事故の件数の減少を測定だけでなく、子ども・保護者の「行動変化を測定・評価」することにより活動を発展させます。

「対策」 2015年度から順次はじめます。

課題3) ハードの安全だけでなくソフトの開発が必要

「遊具の安全点検により、けがを減らす」等のプログラムは、ハードをチェックし、不備・欠陥の改善からけがを減少しようとのアプローチで活動開始しました。

「対策」 ハードだけでなく、遊具使用の安全（周辺の園庭あるいはグラウンドも含み）のノウハウの開発、即ち指導方法の開発に中期視点で取り組みます。

課題4) 「運動能力・体力づくりで けがを減少」プログラム

「プール、柔軟体操、縄跳び」の3種目で運動能力・体力を測定する計画で着手していますが、園児を3等分する基準の設定がむつかしい。挑戦です。

「対策」 クラスによる種目変更の組み合わせもありと、柔軟に考えています。

課題5) プログラムの保育園外への拡大、特に園児の家庭までのプログラム

園児の家庭でのけがに取り組む必要があることは十分に理解しています。

いずれやらなければならない領域だと考えています。しかし、保育園中心に保護者と深い接点にある登園・降園の安全から始めました。

「対策」 今の分野で成果を上げてから、家庭へと拡大する方針で臨んでいます。

「保護者への安全指導による、けが・事故の減少」は2015年からキャンペーンスタイルのアプローチも取入れます（警察・交通指導員等との連携）。

保護者の行動変化を測定・評価します。

ISS 活動取り組みのメリットは、

- ① けが・事故の少ない保育園
- ② ISS 活動手法が職員の職務能力のレベルアップになると確信しています。